東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	生命倫理・動物福祉	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	堀内　香（獣医師）				
授業概要	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。				
到達目標	生命倫理の概念、動物福祉の概念、愛玩動物の福祉、産業動物の福祉、実験動物の福祉、展示動物の福祉について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻　生命倫理・動物福祉				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章生命倫理の概念と様々な動物観	生命倫理の考え方、生命倫理と獣医療の関わり
2	第1章生命倫理の概念と様々な動物観	動物に対する様々な考え方と影響を与える要因、動物観の歴史的変遷
3	第2章動物福祉の概念	動物福祉とは、近代の動物愛護運動
4	第2章動物福祉の概念	現代の動物愛護運動、動物の権利と動物福祉
5	第2章動物福祉の概念	日本における動物愛護と世界における動物福祉、 動物病院での安楽死の考え方
6	第3章動物福祉の評価	動物福祉の評価とは、動物福祉の生理学的指標
7	第3章動物福祉の評価	動物福祉の行動学的指標、課題
8	第4章動物福祉と社会	動物福祉と社会、法律と動物福祉
9	第4章動物福祉と社会	経済活動と動物福祉、動物福祉教育、動物保護活動
10	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物の飼育の現状と福祉
11	第5章愛玩動物の福祉	家庭での適正飼養と動物福祉上の問題
12	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物の繁殖、流通、利用に関する福祉上の問題
13	第5章愛玩動物の福祉	飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題
14	第5章愛玩動物の福祉	愛玩動物福祉のための対策
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第6章産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義
17	第6章産業動物の福祉	産業動物の飼養の概況と動物福祉の課題
18	第6章産業動物の福祉	産業動物における福祉上の主たる問題
19	第7章実験動物の福祉	産業動物に関する国際的福祉基準、動物福祉向上の方策
20	第7章実験動物の福祉	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制、3Rの原則
21	第7章実験動物の福祉	環境エンリッチメント、獣医学的ケア
22	第7章実験動物の福祉	実験動物の苦痛の評価、安楽死を伴わない動物実験、労働安全衛生
23	第8章展示動物および使役動物の福祉	展示動物の福祉

24	第8章展示動物および使役動物の福祉	展示動物の福祉
25	第8章展示動物および使役動物の福祉	使役動物の福祉-身体障害補助犬(補助犬)を中心に-
26	第8章展示動物および使役動物の福祉	使役動物の福祉-身体障害補助犬(補助犬)を中心に-
27	第9章野生動物の福祉	野生動物の福祉
28	第9章野生動物の福祉	野生動物の福祉に関する諸問題
29	第9章野生動物の福祉	対策と課題
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学ⅠⅡⅢⅣ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	120
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	菅谷茜（獣医師）・佐々木ルリエ（獣医師）・安田一敏（獣医師） 動物形態機能学Ⅰ：菅谷茜　動物 形態機能学Ⅱ：佐々木ルリエ　動物 形態機能学Ⅲ：佐々木ルリエ・菅谷茜　動物形態機 能学Ⅳ：安田一敏				
授業概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。				
到達目標	各動物の形態や機能を理解し、病的変化について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物形態機能学・第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物形態機能学Ⅰ（1-30）	1	第1章　生命のすがた	体を形づくる基本物質、細胞のしくみと働き
	2	第1章　生命のすがた	遺伝情報
	3	第1章　生命のすがた	上皮組織
	4	第1章　生命のすがた	腺組織、支持組織
	5	第1章　生命のすがた	筋組織、神経組織
	6	第1章　生命のすがた	器官の成り立ちと維持、調節システム
	7	第2章　血液と造血器	血球成分と血漿成分
	8	第2章　血液と造血器	赤血球の構造と機能
	9	第2章　血液と造血器	白血球の構造と機能
	10	第2章　血液と造血器	白血球の構造と機能
	11	第2章　血液と造血器	白血球の構造と機能
	12	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常、線維素溶解
	13	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常、線維素溶解
	14	第2章　血液と造血器	血小板機能と血液凝固異常、線維素溶解
	15	ふりかえり	ふりかえり
	16	第3章　血液循環とその調節	循環器系の概要
	17	第3章　血液循環とその調節	心臓の仕組み
	18	第3章　血液循環とその調節	心筋の性質
	19	第3章　血液循環とその調節	心筋の自動性と興奮の伝わり
	20	第3章　血液循環とその調節	心臓の周期
	21	第3章　血液循環とその調節	心電図
	22	第3章　血液循環とその調節	心臓機能の調節
	23	第3章　血液循環とその調節	血管のしくみと働き

	24	第3章　血液循環とその調節	血液循環の調節（血圧）
	25	第3章　血液循環とその調節	毛細血管を横切る物質の移動
	26	第3章　血液循環とその調節	リンパ系のしくみ、脾臓のしくみ
	27	第4章　生体の防御機構	生体を守る防御機構
	28	第4章　生体の防御機構	自然免疫
	29	第4章　生体の防御機構	獲得免疫
	30	ふりかえり	ふりかえり
動物形態機能学Ⅱ（31-60）	31	第7章　からだの支持と運動	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分
	32	第7章　からだの支持と運動	骨格（骨格の概念）
	33	第7章　からだの支持と運動	骨格（骨格系の分類）
	34	第7章　からだの支持と運動	骨格
	35	第7章　からだの支持と運動	骨格
	36	第7章　からだの支持と運動	骨格
	37	第7章　からだの支持と運動	骨格
	38	第7章　からだの支持と運動	骨格
	39	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
	40	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
	41	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
	42	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
	43	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
	44	第7章　からだの支持と運動	骨格筋
	45	ふりかえり	ふりかえり
	46	第6章　感覚と情報伝達	感覚系とは
	47	第6章　感覚と情報伝達	受容器と閾値
	48	第6章　感覚と情報伝達	体性感覚
	49	第6章　感覚と情報伝達	体性感覚
	50	第6章　感覚と情報伝達	嗅覚
	51	第6章　感覚と情報伝達	嗅覚
	52	第6章　感覚と情報伝達	味覚
	53	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	54	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	55	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	56	第6章　感覚と情報伝達	聴覚と平衡感覚
	57	第6章　感覚と情報伝達	視覚
	58	第6章　感覚と情報伝達	視覚
	59	第6章　感覚と情報伝達	視覚
	60	ふりかえり	ふりかえり
	61	第5章　脳と神経	脳と神経系の役割

動物形態機能学Ⅲ（61-90）	62	第5章　脳と神経	神経系を構成する細胞
	63	第5章　脳と神経	静止膜電位と活動電位
	64	第5章　脳と神経	興奮の伝導とシナプス伝達
	65	第5章　脳と神経	シナプス
	66	第5章　脳と神経	興奮性シナプスと抑制性シナプス
	67	第5章　脳と神経	神経伝達物質と受容体
	68	第5章　脳と神経	神経伝達物質と受容体
	69	第5章　脳と神経	神経回路、神経系
	70	第5章　脳と神経	脳の構成要素
	71	第5章　脳と神経	脳神経、脊髄と脊髄神経
	72	第5章　脳と神経	自律神経系
	73	第5章　脳と神経	行動の神経調節
	74	第5章　脳と神経	行動の神経調節
	75	ふりかえり	ふりかえり
	76	第8章　外皮系と体温調節	外皮
	77	第8章　外皮系と体温調節	皮膚の付属器官
	78	第8章　外皮系と体温調節	皮膚による体温調節機構
	79	第9章　呼吸とその調節	呼吸器の構造
	80	第9章　呼吸とその調節	呼吸器の構造
	81	第9章　呼吸とその調節	呼吸
	82	第9章　呼吸とその調節	呼吸
	83	第10章　内分泌とホルモン	内分泌とは−外分泌や傍分泌との違い
	84	第10章　内分泌とホルモン	ペプチドホルモン・ステロイドホルモン・アミン型ホルモンとは
	85	第10章　内分泌とホルモン	内分泌の基本構造と機能
	86	第10章　内分泌とホルモン	内分泌の基本構造と機能
	87	第10章　内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島
	88	第10章　内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島
	89	第10章　内分泌とホルモン	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・ランゲルハンス島
	90	ふりかえり	ふりかえり
	91	第11章　消化吸収と栄養代謝	歯の分類と数、舌の形と働き
	92	第11章　消化吸収と栄養代謝	咽頭と嚥下、食道
	93	第11章　消化吸収と栄養代謝	胃のしくみと働き
	94	第11章　消化吸収と栄養代謝	腸のしくみと働き
	95	第11章　消化吸収と栄養代謝	唾液腺
	96	第11章　消化吸収と栄養代謝	膵臓
	97	第11章　消化吸収と栄養代謝	肝臓
	98	第11章　消化吸収と栄養代謝	炭水化物の消化と吸収
	99	第11章　消化吸収と栄養代謝	タンパク質の消化と吸収
	100	第11章　消化吸収と栄養代謝	脂肪の消化と吸収、代謝総論

動物形態機能学Ⅳ（91-120）	101	第11章　消化吸収と栄養代謝	三大栄養素の分子のしくみ、代謝経路の概要
	102	第11章　消化吸収と栄養代謝	炭水化物（糖質）の代謝経路・タンパク質の代謝経路
	103	第11章　消化吸収と栄養代謝	脂質の代謝経路
	104	第11章　消化吸収と栄養代謝	ビタミン、ミネラル
	105	ふりかえり	ふりかえり
	106	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
	107	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
	108	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
	109	第12章　尿の生成と体液調節	腎臓
	110	第12章　尿の生成と体液調節	尿路
	111	第12章　尿の生成と体液調節	尿路
	112	第12章　尿の生成と体液調節	体液
	113	第12章　尿の生成と体液調節	体液
	114	第12章　尿の生成と体液調節	体液
	115	第12章　尿の生成と体液調節	電解質バランス
	116	第12章　尿の生成と体液調節	電解質バランス
	117	第12章　尿の生成と体液調節	酸塩基平衡
	118	第12章　尿の生成と体液調節	酸塩基平衡
	119	第12章　尿の生成と体液調節	酸塩基平衡
	120	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物繁殖学	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	堀内　香（獣医師）				
授業概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。				
到達目標	生殖器の形態と機能、性周期と交配について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻　動物繁殖学				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章　性と生殖	生殖とその分類
2	第1章　性と生殖	生殖器の基本的なしくみ（雄の生殖器）
3	第1章　性と生殖	生殖器の基本的なしくみ（雌の生殖器）
4	第1章　性と生殖	生殖機能調節に関わるホルモン（雄犬と雄猫の生殖系ホルモン）
5	第1章　性と生殖	生殖機能調節に関わるホルモン(雌犬と雌猫の生殖ホルモン）
6	第1章　性と生殖	発情徴候と発情周期（犬の発情徴候・発情周期）
7	第1章　性と生殖	発情徴候と発情周期（猫の発情徴候・発情周期）
8	第1章　性と生殖	受精と妊娠（犬及び猫の受精、胚の発育及び着床）
9	第1章　性と生殖	受精と妊娠（犬と猫の胎膜と胎盤、犬と猫の妊娠診断）
10	第1章　性と生殖	分娩と助産、帝王切開（犬、猫の分娩徴候・分娩の様式・経過・難産・帝王切開）
11	第1章　性と生殖	遺伝子と器官発生
12	第1章　性と生殖	去勢手術
13	第1章　性と生殖	不妊手術
14	第1章　性と生殖	人工授精
15	ふりかえり	中間試験前のふりかえり
16	第2章　新生子管理	新生子期とは
17	第2章　新生子管理	新生子のため飼養環境
18	第2章　新生子管理	新生子のため飼養環境
19	第2章　新生子管理	新生子のため飼養環境
20	第2章　新生子管理	新生子のため飼養環境
21	第2章　新生子管理	新生子のため飼養環境
22	第2章　新生子管理	新生子のため飼養環境
23	第2章　新生子管理	新生子の解剖学的特徴

24	第2章　新生子管理	新生子の解剖学的特徴
25	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
26	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
27	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
28	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
29	第2章　新生子管理	新生子の生理的機能
30	ふりかえり	終講前のふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物看護学概論	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	堀内　香（獣医師）				
授業概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。				
到達目標	動物看護の基本となる概念、動物看護の提供体制、愛玩動物看護師の社会的立場について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻　動物看護学概論				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史
2	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療の歴史
3	第1章獣医療の歴史と概念	獣医療倫理
4	第1章獣医療の歴史と概念	動物看護の歴史と概念
5	第1章獣医療の歴史と概念	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い
6	第1章獣医療の歴史と概念	第1章ふりかえり
7	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
8	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
9	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護理論の成立過程
10	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学の成立
11	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学の成立
12	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学と高等教育
13	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	動物看護学と高等教育
14	第2章獣医療における動物看護の理論と特徴	第2章ふりかえり
15	ふりかえり	
16	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	認定動物看護師の誕生
17	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	認定動物看護師の誕生
18	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生
19	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生
20	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	愛玩動物看護師の職能団体

21	第3章国家資格愛玩動物看護師誕生への道のり	第3章ふりかえり
22	第4章動物看護の役割と概念	動物看護とは
23	第4章動物看護の役割と概念	動物看護における倫理
24	第4章動物看護の役割と概念	動物にとっての福祉・健康・QOL
25	第4章動物看護の役割と概念	看護動物に影響を与える環境要因
26	第4章動物看護の役割と概念	動物病院における動物看護師の役割
27	第4章動物看護の役割と概念	動物病院における動物看護師の役割
28	第4章動物看護の役割と概念	動物看護の探求
29	第4章動物看護の役割と概念	動物看護の探求
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物行動学	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	渡辺まゆみ				
授業概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。				
到達目標	動物行動学の基礎、個体維持行動、発達過程と社会行動、学習理論、問題行動、行動治療について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻　動物行動学				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物行動学の基本概念	動物行動学の発展と行動学研究の4分野・動物行動学の成り立ちと発展
2	第1章動物行動学の基本概念	行動学研究の4分野・行動の進化と適応
3	第1章動物行動学の基本概念	家畜化に伴う行動学的変化－犬を例として
4	第2章維持行動の意味と効果	摂食行動・飲水行動
5	第2章維持行動の意味と効果	排泄行動・身づくろい行動・護身行動
6	第3章社会行動	群れの社会構造・動物の社会行動とは・社会性が不明瞭な動物の集団
7	第3章社会行動	生殖行動・哺乳類の生殖戦略・性行動・母性行動（育子行動）
8	第3章社会行動	コミュニケーション行動・動物のコミュニケーション行動と感覚世界・犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動
9	第3章社会行動	コミュニケーション行動・動物のコミュニケーション行動と感覚世界・犬の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動
10	第3章社会行動	猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動・犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
11	第3章社会行動	猫の視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動・犬と猫の嗅覚を用いたコミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
12	第4章行動発現のしくみ	行動の動機づけ・脳による行動の制御
13	第4章行動発現のしくみ	行動の日周リズム・行動の年周リズム・その他の周期性
14	第5章行動の発達と学習	行動の発達科学・新生子期（犬）・移行期（犬）・社会化期（犬）・若年期・成熟期から高齢期・猫の行動発達
15	ふりかえり	
16	第5章行動の発達と学習	行動の発達科学・新生子期（犬）・移行期（犬）・社会化期（犬）・若年期・成熟期から高齢期・猫の行動発達
17	第5章行動の発達と学習	社会構造の影響・母性行動の影響・遺伝と環境・訓化・感作と脱感作・般化・学習に影響を与える因子
18	第5章行動の発達と学習	古典的条件づけ・高次条件づけ・オペラント条件づけ・三項随伴性・条件付けの方法と消去・反応形成
19	第5章行動の発達と学習	古典的条件づけ・高次条件づけ・オペラント条件づけ・三項随伴性・条件付けの方法と消去・反応形成
20	第6章問題行動と行動診療	正常行動・異常行動・問題行動とは・問題行動の関連因子・愛玩動物看護師にとっての臨床動物行動学の必要性

21	第6章問題行動と行動診療	問題となっている行動を別の行動と置き換える行動修正法（行動置換法）・問題行動に関わる強化子・罰子を操作し問題行動を減らす行動修正法
22	第6章問題行動と行動診療	行動診療とは・カウンセリングとコンサルテーション・獣医師の役割・愛玩動物看護師の役割・問題行動の客観的評価法・治療プログラムの作成とフォローアップ、問題行動治療の考え方・環境整備・行動修正法
23	第6章問題行動と行動診療	薬物療法・不妊手術・去勢手術・外科的療法・合成フェロモン・食事療法とサプリメント・基本的なトレーニング・問題行動治療の助けになるグッズ
24	第7章犬と猫における主な問題行動	犬の攻撃行動・犬の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子
25	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の攻撃行動・猫の攻撃行動に関係する生得的因子と環境因子
26	第7章犬と猫における主な問題行動	恐怖・不安に起因する問題行動の種類・定義・診断基準・犬と猫の攻撃的行動の治療・恐怖行動・不安行動の治療
27	第7章犬と猫における主な問題行動	犬の恐怖・不安に起因する問題行動、恐怖、不安とは・恐怖行動・不安行動の治療・猫の排泄に関する問題行動・排泄に関する問題行動に関連する生得的因子と環境因子
28	第7章犬と猫における主な問題行動	犬と猫の常同障害・犬と猫の高齢性認知機能不全・病因と寄与因子
29	第7章犬と猫における主な問題行動	猫の排泄に関する問題行動の治療・犬と猫の高齢性認知機能不全の治療（進行を抑える）
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	比較動物学Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数	60	時間数	60
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	大津政義（獣医師）				
授業概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。				
到達目標	動物の種類及び特性、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

比較動物学Ⅰ（1-30）

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章産業動物	牛の歴史
2	第1章産業動物	牛の特性
3	第1章産業動物	牛の品種
4	第1章産業動物	牛の解剖と生理
5	第1章産業動物	牛の飼養管理
6	第1章産業動物	牛に多い疾病
7	第1章産業動物	牛に多い疾病
8	第1章産業動物	馬の歴史
9	第1章産業動物	馬の活用
10	第1章産業動物	現在の飼育状況
11	第1章産業動物	代表的な品種の特徴
12	第1章産業動物	馬の解剖と生理
13	第1章産業動物	馬の飼養管理
14	第1章産業動物	馬に多い疾病
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第1章産業動物	豚の歴史・品種・特性
17	第1章産業動物	豚の解剖・生理
18	第1章産業動物	豚の飼養管理・豚に多い疾病
19	第1章産業動物	羊の歴史・品種ごとの特性
20	第1章産業動物	羊の解剖・生理
21	第1章産業動物	羊の飼養管理
22	第1章産業動物	羊に多い疾病

	23	第1章産業動物	山羊の歴史・品種・特性
	24	第1章産業動物	山羊の生理・飼養管理
	25	第1章産業動物	山羊に多い疾病
	26	第1章産業動物	鶏の歴史・品種
	27	第1章産業動物	鶏の解剖生理
	28	第1章産業動物	鶏の飼養管理・疾病
	29	第1章産業動物	鶏に多い疾病
	30	ふりかえり	ふりかえり
比較動物学Ⅱ（31-60）	31	第1章産業動物	畜産業とは・日本の畜産・畜産業の地域による特徴
	32	第1章産業動物	畜産業の生産費の構成割合
	33	第2章1実験動物学総論	動物実験の目的と配慮・実験動物とは・実験動物の歴史
	34	第2章1実験動物学総論	実験動物関連法規の誕生と発展・動物看護師と動物実験
	35	第2章2実験動物の管理学	生体因子の管理学・遺伝子モニタリングの管理学
	36	第2章2実験動物の管理学	物理化学的因子の管理学・栄養学的管理学
	37	第2章2実験動物の管理学	微生物学的管理学・動物実験の基本技術・動物飼育管理上の注意点
	38	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	マウス
	39	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	ラット
	40	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	シリアン（ゴールデン）ハムスター・チャイニーズハムスター・スナネズミ
	41	第2章3代表的な実験動物の特性と飼育管理	モルモット・ウサギ・サル類・その他の動物
	42	第2章4疾患モデル動物	自然発症疾患モデル動物
	43	第2章4疾患モデル動物	トランスジェニック動物・代表的な実験的疾患モデル動物・研究資源バンク
	44	第2章5動物実験の代替法	代替法とその活用・代替法開発の背景と現在の課題
	45	ふりかえり	ふりかえり
	46	第3章野生動物	野生動物の分類と生物多様性
	47	第3章野生動物	鳥獣害の現状と管理の意義
	48	第3章野生動物	絶滅危惧種の定義に含まれる動物、原因、保全方法やその意義
	49	第3章野生動物	外来生物の定義・在来生態系に及ぼす影響・対策
	50	第3章野生動物	野生動物の救護
	51	第3章野生動物	野生動物救護の対象と内訳
	52	第3章野生動物	野生動物の病気と事故
	53	第3章野生動物	野生動物の病気と事故
	54	第3章野生動物	野生動物の救護体制
	55	第3章野生動物	野生動物の救護体制
	56	第4章展示動物	展示動物の意義と動物園等の役割

57	第4章展示動物	展示動物の意義と動物園等の役割
58	第4章展示動物	動物園などにおける個体、群管理、行動管理
59	第4章展示動物	動物園などの施設管理
60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	佐々木ルリエ（獣医師）、菅谷茜（獣医師）、今瑞穂(愛玩動物看護師)				
	動物内科看護学Ⅰ：今瑞穂・佐々木ルリエ 看護学Ⅱ：菅谷茜・佐々木ルリエ				動物内科
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。				
到達目標	健康の保持、増進、診療補助に必要な技術、検査、処置に必要な技術、投薬に関わる技術、輸液に関わる技術、輸血に関わる技術、心電図、血圧に関わる技術、X線検査とCT/MRIに関わる技術、超音波検査に関わる技術、内視鏡検査に関わる技術、神経学的検査に関わる技術、眼科検査に関わる技術、皮膚と耳の検査に関わる技術について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻動物内科看護学				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

動物内科看護学Ⅰ（1-

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物の健康保持・増進	入院動物の日常管理、動物種による管理上の注意点、排泄の管理
2	第1章動物の健康保持・増進	ワクチネーション
3	第1章動物の健康保持・増進	外部寄生虫の確認、幼若動物の入院看護
4	第1章動物の健康保持・増進	老齢動物の入院看護
5	第1章動物の健康保持・増進	身体検査、アセスメント（評価）項目
6	第1章動物の健康保持・増進	入院動物に関するその他の業務、検疫と隔離
7	第2章衛生・安全管理と環境整備	標準予防策の実際
8	第2章衛生・安全管理と環境整備	感染コントロール
9	第2章衛生・安全管理と環境整備	感染コントロール
10	第2章衛生・安全管理と環境整備	安全管理対策・動物飼養管理中の事故防止
11	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物に応じた環境調整
12	第2章衛生・安全管理と環境整備	動物に応じた入院室整備
13	第3章対動物関係の技術	動物のアプローチ、安全な散歩および運動技術
14	第3章対動物関係の技術	安全な散歩および運動技術
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査、状態に合わせた保定法・ハンドリングと保定法
17	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査、状態に合わせた保定法・ハンドリングと保定法
18	第3章対動物関係の技術	動物の処置や検査、状態に合わせた保定法・ハンドリングと保定法
19	第4章動物の生活を援助するための技術	健康な食生活・栄養状態の評価と栄養管理

30）	20	第4章動物の生活を援助するための技術	栄養の補給法
	21	第4章動物の生活を援助するための技術	摂食行動のアセスメントと援助方法
	22	第4章動物の生活を援助するための技術	健康な食生活・栄養状態の評価と栄養管理
	23	第4章動物の生活を援助するための技術	栄養の補給法
	24	第4章動物の生活を援助するための技術	摂食行動のアセスメントと援助方法
	25	第4章動物の生活を援助するための技術	排泄行動のアセスメントと排泄物の観察
	26	第4章動物の生活を援助するための技術	自然な排泄を促す援助方法
	27	第4章動物の生活を援助するための技術	強制的な排泄、外科的な排泄障害
	28	第4章動物の生活を援助するための技術	身体各部の清潔の援助方法、休息、睡眠状態のアセスメントと援助方法
	29	第3章対動物関係の技術	罨法
	30	ふりかえり	ふりかえり
動物内科看護学Ⅱ（31-60）	31	第5章診療補助に必要な技術	診療時における愛玩動物看護師の役割、診療補助、受付および会計業務
	32	第5章診療補助に必要な技術	クライアントエデュケーション（飼い主教育）、各種検査業務
	33	第5章診療補助に必要な技術	診療時における対象動物の心理、診療時における飼い主の心理
	34	第5章診療補助に必要な技術	診療時に必要な器具とその準備、管理方法
	35	第6章検査・処置の介助に必要な技術	注射器の取扱い及び管理方法
	36	第6章検査・処置の介助に必要な技術	採血
	37	第6章検査・処置の介助に必要な技術	侵襲の可能性を伴うその他の処置、酸素吸入、強制給餌、包帯法、化学療法
	38	第6章検査・処置の介助に必要な技術	マイクロチップの挿入
	39	第6章検査・処置の介助に必要な技術	マイクロチップの挿入
	40	第6章検査・処置の介助に必要な技術	穿刺、膀胱穿刺
	41	第6章検査・処置の介助に必要な技術	膿瘍、嚢胞の穿刺、胸腔穿刺
	42	第6章検査・処置の介助に必要な技術	腹腔穿刺、腫瘤穿刺
	43	第6章検査・処置の介助に必要な技術	脊髄腔の穿刺
	44	第6章検査・処置の介助に必要な技術	カテーテルの挿入、留置及び管理、静脈留置針
	45	第6章検査・処置の介助に必要な技術	尿道カテーテル、経鼻カテーテル、胃カテーテル
	46	第7章投薬に関わる技術	投薬に際して確認すべき項目
	47	第7章投薬に関わる技術	各剤形の取扱い、錠剤、散剤、顆粒剤
	48	第7章投薬に関わる技術	各剤形の取扱い、注射薬、点眼薬、シロップ剤、軟膏剤

49	第7章投薬に関わる技術	薬剤の保存、常温保存、室温保存
50	第7章投薬に関わる技術	薬剤の保存、冷所保存、遮光保存、暗所保存
51	第7章投薬に関わる技術	投与方法とその介助、経口投与、皮下投与、筋肉内投与、静脈内投与
52	第7章投薬に関わる技術	投与方法とその介助、点眼、点耳、霧滴吸入療法、薬浴、塗布
53	第8章輸液に関わる技術	輸液処置時における動物看護師の役割、輸液の適応とリスク
54	第8章輸液に関わる技術	輸液計画、各種輸液剤の適応や特性、輸液に関わる手技
55	第8章輸液に関わる技術	静脈留置針設置の準備と手順、輸液処置中のモニタリング
56	第9章輸血に関わる技術	輸血とは、輸血の適応、輸血のリスク
57	第9章輸血に関わる技術	血液型と輸血
58	第9章輸血に関わる技術	輸血計画
59	第9章輸血に関わる技術	輸血の手順、輸血後の血液検査
60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床看護学総論	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	堀内　香（獣医師）				
授業概要	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。				
到達目標	動物看護過程の展開、診療記録、動物看護業務、ターミナルケアに関わる技術について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第9巻　動物臨床看護学総論				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
2	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割
3	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	臨床における動物のQOL維持の重要性
4	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	臨床における動物のQOL維持の重要性
5	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	動物看護管理
6	第1章動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識	動物看護管理
7	第2章動物看護過程	動物看護過程とは
8	第2章動物看護過程	アセスメント　～情報収集・解釈・判断～
9	第2章動物看護過程	動物看護診断　～動物看護上の問題点を抽出～
10	第2章動物看護過程	動物看護計画　～目標と具体策の立案～
11	第2章動物看護過程	動物看護実践
12	第2章動物看護過程	動物看護実践
13	第2章動物看護過程	動物看護評価
14	第2章動物看護過程	動物看護評価
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章診療記録	診療記録（カルテ）の記入・保存・管理・運用
17	第3章診療記録	動物看護記録の目的や書式、作成方法
18	第3章診療記録	動物看護記録の目的や書式、作成方法
19	第4章動物看護業務	若齢期の動物看護
20	第4章動物看護業務	老齢期の動物看護

21	第4章動物看護業務	老齢期の動物看護
22	第4章動物看護業務	急性期とは・経過別の動物看護の特性
23	第4章動物看護業務	右後肢断脚手術を実施した犬における術後急性期の動物看護
24	第4章動物看護業務	回復期とは・リハビリテーション
25	第4章動物看護業務	前十字靭帯断裂の手術を実施した犬における術後回復期の動物看護
26	第4章動物看護業務	慢性期とは・家庭での継続動物看護を視野に入れた退院計画・指導
27	第4章動物看護業務	糖尿病に罹患した犬における慢性期の動物看護
28	第4章動物看護業務	終末期（ターミナル期）とは・ターミナルケアと看取り
29	第4章動物看護業務	動物医療グリーフケア・死亡した動物への対応とエンゼルケア
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床検査学	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	佐々木ルリエ（獣医師）・菅谷茜（獣医師）・池田亜紀子（獣医師）				
授業概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。				
到達目標	臨床検査の基礎、血液検査、尿検査、糞便検査、細胞診と病理組織検査、遺伝子検査について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻　動物臨床検査学				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章臨床検査の基礎	臨床検査
2	第1章臨床検査の基礎	検査値の考え方
3	第1章臨床検査の基礎	主な検査機器
4	第2章血液検査	採血部位および採血方法
5	第2章血液検査	血漿・血清の分離法
6	第2章血液検査	全血球計算（CBC）
7	第2章血液検査	血液塗抹標本の作製法と染色法
8	第2章血液検査	血液塗抹標本の観察法
9	第2章血液検査	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査
10	第2章血液検査	生化学検査（総論）
11	第2章血液検査	生化学検査（各論）
12	第2章血液検査	生化学検査（各論）
13	第2章血液検査	血液ガス分析
14	第3章血液検査	免疫学的検査
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章尿検査	尿検体の採取法
17	第3章尿検査	尿検体の取扱い
18	第3章尿検査	尿検体の取扱い
19	第3章尿検査	検査手順
20	第3章尿検査	尿沈渣標本に出現する有形成分
21	第3章尿検査	尿沈渣標本に出現する有形成分
22	第4章糞便検査	糞便検査の目的と動物看護師の役割
23	第4章糞便検査	採便方法と観察

24	第4章糞便検査	寄生虫の検査・その他の微生物検査・消化試験
25	第5章細胞診検査と病理組織検査	細胞診検査
26	第5章細胞診検査と病理組織検査	細胞診検査
27	第5章細胞診検査と病理組織検査	病理組織検査
28	第6章遺伝子検査	遺伝子検査とは
29	第6章遺伝子検査	検体の採取法と取扱い
30	第6章遺伝子検査	遺伝子検査の対象疾患

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	愛玩動物学Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	芝田早苗・梅山明美・中村知里・山田広美 愛玩動物学Ⅰ：芝田早苗・梅山明美・中村知里　愛玩動物学Ⅱ：芝田早苗・梅山明美・山田広美				
授業概要	愛玩動物やの歴史、品種、飼養管理、犬猫の血統、血統書についてや、愛玩鳥やエキゾチックアニマルの特徴、生態、飼養管理、使役動物の歴史と福祉、動物の基本的な取り扱いについて学ぶ。				
到達目標	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻　愛玩動物学・猫の教科書（緑書房）				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

愛玩動物学Ⅰ（1-30）

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
2	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
3	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
4	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
5	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
6	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴
7	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	歴史（食肉目の祖先と進化、オオカミから派生した犬）
8	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	歴史（犬の家畜化、犬種の誕生）
9	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	現在の飼育状況（ペットブーム・犬種ブーム・ペットの家族化とトラブル）
10	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	犬の活用
11	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（飼育施設と環境、食事管理、日常の管理）
12	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（不妊・去勢、しつけ、飼い主の法的管理義務）
13	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
14	第1章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
15	第2章犬の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング
16	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	歴史（猫の祖先、猫の家畜化）
17	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	歴史（家畜化による変化、DNA解析による祖先の証明、世界に広まった猫、現代の猫）
18	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	現在の飼育状況（世界の飼育状況、日本の飼育状況、屋内飼育、屋外飼育、不妊、去勢、猫の殺処分と地域での保護）
19	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	猫の活用（動物介在療法、動物介在活動、猫カフェ）
20	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	特徴（猫のネオテニー、身体の特徴）

	21	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	ライフサイクル
	22	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴（品種、血統の作出、長毛種、短毛種）
	23	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴（変形等形態的特徴を持つ品種）
	24	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	代表的な品種の特徴（変形等形態的特徴を持つ品種）
	25	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（関連法規と必要な配慮）
	26	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	飼養管理（猫の福祉）
	27	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（グルーミングの必要性）
	28	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（猫の手入れをするときの注意点）
	29	第2章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（グルーミングに必要な道具、シャンプー）
	30	第3章猫の歴史・品種・飼養管理	品種に適したグルーミング（グルーミングに必要な道具、シャンプー）
愛玩動物学Ⅱ（31-60）	31	第3章血統と血統書　犬	血統書の意義・血統書の読み取り方
	32	第3章血統と血統書　犬	血統管理と品種改良
	33	第4章血統と血統書　犬	血統管理と品種改良
	34	第3章血統と血統書　猫	血統書の意義・血統書の読み取り方
	35	第3章血統と血統書　猫	血統管理と品種改良
	36	第4章血統と血統書　猫	血統管理と品種改良
	37	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	歴史・現在の飼育状況
	38	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	代表的な品種の特徴
	39	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	飼養管理
	40	第4章愛玩鳥の特徴・生態・飼養管理	飼養管理
	41	第5章ウサギの特徴・生態・飼養管理	背景
	42	第5章ウサギの特徴・生態・飼養管理	飼養管理
	43	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	背景
	44	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	ハムスターの分類・生態・特徴
	45	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	ハムスターの飼養管理
	46	第6章げっ歯類（ハムスター・モルモットの特徴・生態・飼養管理など）	モルモットの分類・生態・特徴・モルモットの飼養管理
	47	第7章フェレットの特徴・生態・飼養管理	背景・飼養管理
	48	第8章カメの特徴・生態・飼養管理	背景・主な品種・飼養管理
	49	第9章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類
	50	第10章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類

	51	第11章エキゾチックアニマルの繁殖過程	性周期・ウサギ・げっ歯類・フェレット・鳥類
	52	第10章使役動物	使役動物の歴史と福祉
	53	第10章使役動物	身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）
	54	第10章使役動物	その他の使役犬
	55	第11章動物の基本的な取り扱い（犬）	動物を安全に散歩、運動させ、ふれあわせることの意義・使役動物の歴史と福祉
	56	第11章動物の基本的な取り扱い（犬）	基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、 口腔内衛生管理など）の目的・方法
	57	第11章動物の基本的な取り扱い（犬）	基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、 口腔内衛生管理など）の目的・方法・定期的な予防管理
	58	第11章動物の基本的な取り扱い（猫）	基本的グルーミング（ブラッシング、耳掃除、爪切り、口腔内衛生管理など）の目的・方法
	59	第11章動物の基本的な取り扱い（猫）	基本的グルーミング（ブラッシング、耳掃除、爪切り、口腔内衛生管理など）の目的・方法
	60	第11章動物の基本的な取り扱い（猫）	適切な飼養環境とストレスの緩和方法

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	人と動物の関係学	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	講義		
担当教員	芝田早苗				
授業概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。				
到達目標	人間と動物の関わり、人間の福祉と愛玩動物の関わり、動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻　人と動物の関係学				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章人と動物の関わりの歴史	人と動物の関わり
2	第1章人と動物の関わりの歴史	人と動物の関わり
3	第1章人と動物の関わりの歴史	文学・芸術における動物：日本
4	第1章人と動物の関わりの歴史	文学・芸術における動物：日本
5	第1章人と動物の関わりの歴史	日本と西洋における動物の関わりの比較
6	第1章人と動物の関わりの歴史	日本と西洋における動物の関わりの比較
7	第1章人と動物の関わりの歴史	本章のまとめ
8	第2章現代の人と動物の関わり	動物の飼育と利用の現状
9	第2章現代の人と動物の関わり	動物の飼育と利用の現状
10	第2章現代の人と動物の関わり	人の生活に貢献する動物の役割
11	第2章現代の人と動物の関わり	人の生活に貢献する動物の役割
12	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の定義と歴史
13	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには
14	第3章動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育	動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育を効果的に実施するには
15	ふりかえり	
16	第4章人間と動物の関わり	人はなぜペットを飼うのか　−人が動物をペットとして飼育する理由−
17	第4章人間と動物の関わり	ペット飼育の歴史と現状
18	第4章人間と動物の関わり	ペット飼育の歴史と現状
19	第4章人間と動物の関わり	ペットの飼育　−人と動物がともに幸せに暮らすために必要なこと−
20	第4章人間と動物の関わり	ペットへの愛着と依存
21	第4章人間と動物の関わり	ペットへの愛着と依存
22	第4章人間と動物の関わり	ペットロスの定義と対策

23	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待の定義と背景
24	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待への対処
25	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	動物虐待の現状と法規制
26	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）の定義と背景
27	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	愛玩動物が子どもや高齢者に与える恩恵
28	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	加齢による飼育困難
29	第5章人間の福祉と愛玩動物の関わり	Veterinary Social Workと動物看護師
30	ふりかえり	

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物形態機能学実習	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習		
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）・堀内香(獣医師)・佐々木ルリエ（獣医師）				
授業概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。				
到達目標	①顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する。顕微鏡の適切な操作法について修得する。顕微鏡の適切な管理法について理解する。②主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する。組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する。③骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する。代表的な関節の名称と構造、機能について理解する。代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する。模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する。生殖器の雌雄差について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻動物形態機能学・愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版・ビジュアルで学ぶ伴侶動物解剖生理学（緑書房）				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
2	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
3	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
4	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
5	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
6	第1章第3節　顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み、顕微鏡の各部位、鏡検倍率、鏡検条件、適切な操作法、メンテナンス法、顕微鏡の管理
7	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）
8	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）
9	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）
10	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：肝臓・膵臓・胃（消化器系）
11	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：腎臓・膀胱（泌尿器系）
12	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：肺、気管（呼吸器）
13	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：副腎・甲状腺（内分泌系）
14	第2章第2節　主要臓器の組織像確認	内臓：精巣・卵巣・前立腺（生殖器）
15	ふりかえり	ふりかえり

16	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・代表的な骨の名称と特徴
17	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・代表的な骨の名称と特徴
18	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・関節の動きと筋の関係
19	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・関節の動きと筋の関係
20	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格および筋肉の形態と機能・複合的な構成をもつ部位
21	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
22	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
23	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	運動器系：骨格及び筋肉の形態と機能・代表的な骨格筋の名称、構造、機能
24	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	呼吸器系：各部位・臓器の位置、関係性
25	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	循環器：各部位・臓器の位置、関係性
26	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	消化器系：各部位、臓器の位置、関係性
27	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	消化器系：各部位、臓器の位置、関係性
28	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	泌尿器系：各部位、臓器の位置、関係性
29	第1章第1節　骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	生殖器系：各部位、臓器の位置、関係性
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学実習Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	1年	授業形態	実習		
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）・佐々木ルリエ（獣医師）・菅谷茜（獣医師） 動物内科看護学実習Ⅰ：今瑞穂・佐々木ルリエ　動物内科看護学実習Ⅱ：佐々木ルリエ・菅谷茜・今瑞穂				
授業概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。				
到達目標	基本的な保定の実施、聴診器や体温計の取扱い、全身状態やバイタルサインの評価ができる。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物内科看	1	序章　実習に臨む前の心構え	動物の飼い主からの信頼を得るために
	2	序章　実習に臨む前の心構え	動物に触れあう前の心構え
	3	序章　実習に臨む前の心構え	動物に接する者の心構えの基本・愛玩動物看護者の倫理網領を理解して臨む・5つの自由（アニマル・ウェルフェア）および「動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護管理法）を知って臨む」
	4	序章　実習に臨む前の心構え	犬と人とのコミュニケーションをとる方法とは =「ボディランゲージ」を知る。
	5	序章　実習に臨む前の心構え	身支度の心得（身支度・身だしなみチェック）
	6	序章　実習に臨む前の心構え	実習態度チェック項目・身の回りの環境を整理整頓、掃除する。手洗いを習慣にする。
	7	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の保定とは
	8	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の保定とは
	9	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の保定時の注意・猫のボディランゲージ
	10	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の運搬方法
	11	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の基本保定法：立位保定法
	12	第2章第1節　診察補助と身体検査	猫の基本保定法：犬座位保定法
	13	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本保定法：伏臥位保定法
	14	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法：横臥位保定法

護学実習Ⅰ（1-30）	15	ふりかえり	ふりかえり
	16	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法:横臥位保定法
	17	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の保定時の注意
	18	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の診察台への上げ下ろし
	19	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法:立位保定法
	20	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法:犬座位保定法
	21	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的保定法:伏臥位保定法
	22	第2章第1節　診察補助と身体検査	犬の基本的な保定法:横臥位保定法
	23	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体重測定
	24	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体重測定
	25	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体温測定
	26	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体温測定
	27	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体検査とバイタル評価:体温測定
	28	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:バイタルサイン評価、心拍数の測定
	29	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:バイタルサイン評価、心拍数の測定
	30	ふりかえり	ふりかえり
	31	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:呼吸数の測定
	32	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:股動脈圧
	33	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:股動脈圧
	34	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:可視粘膜観察(CRT)
	35	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:可視粘膜観察(CRT)
	36	第2章第1節　診察補助と身体検査	身体測定とバイタル評価:浅在リンパ節
	37	第2章第4節　注射器の取扱い	注射器の扱い方と薬剤の準備

動物内科看護学実習Ⅱ（31-60）	38	第2章第4節　注射器の取扱い	シリンジの構造、注射器の構造
	39	第2章第4節　注射器の取扱い	シリンジへの注射針接続、注射針キャップの外し方、つけ方
	40	第2章第4節　注射器の取扱い	シリンジへの注射針接続、注射針キャップの外し方、つけ方
	41	第2章第4節　注射器の取扱い	注射針の外し方、注射針の持ち方、薬剤の準備（アンプル）
	42	第2章第4節　注射器の取扱い	薬剤の準備（バイアル）
	43	第2章第4節　注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備（皮内注射、皮下注射）
	44	第2章第4節　注射器の取扱い	注射法に応じたシリンジの準備（筋肉内注射、静脈内注射）
	45	第2章第4節　注射器の取扱い	注射包に応じたシリンジの準備（皮内注射、腹腔内注射）
	46	第2章第5節 動物看護技術の応用	採血時の補助・採血時の保定
	47	第2章第5節 動物看護技術の応用	採血時の補助・採血時の保定
	48	第2章第5節 動物看護技術の応用	外耳処置時の補助・エリザベスカラーの装着
	49	第2章第5節 動物看護技術の応用	獣医師による投薬量計算・調剤
	50	第2章第5節 動物看護技術の応用	獣医師による投薬量計算・調剤
	51	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤を取り扱う上での注意点、薬剤の使用方法の説明、医薬品の在庫管理、医薬品の廃棄、医薬品容器包装等の廃棄
	52	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤の取り扱い、処方箋と調剤用語
	53	第2章第5節 動物看護技術の応用	薬剤の形状・投薬方法（内服法・外用薬）
	54	第2章第5節 動物看護技術の応用	分包の仕方・錠剤の分割・乳鉢と乳棒を用いた粉砕・内服用液剤の秤取・散剤の秤取
	55	第2章第5節 動物看護技術の応用	腹帯の装着、創傷管理にあたって
	56	第2章第5節 動物看護技術の応用	創傷保護に用いるドレッシング材とバンデージ
	57	第2章第5節 動物看護技術の応用	包帯法、創傷管理の観察ポイント
	58	第2章第5節 動物看護技術の応用	罨法、冷罨法（アイシング）
	59	第2章第5節 動物看護技術の応用	罨法、冷罨法（アイシング）、吸引法（サクション）
	60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅰ	必修・選択区分	必修		
		授業回数	30	時間数	30
対象年次	1年	授業形態	実習		
担当教員	佐々木ルリエ（獣医師）・菅谷茜（獣医師）				
授業概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。				
到達目標	①検体採取、処理の手順、②血液採取法と各成分に応じた保存法、③血液抗凝固剤の種類と特徴、④尿採取法と保存方法、⑤採便法と保存方法、⑥貯留液処理における採取法、保存法について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第3章第1節　検体処理	血液採取法
2	第3章第1節　検体処理	橈側皮静脈・外側伏在静脈
3	第3章第1節　検体処理	大腿静脈、頸静脈
4	第3章第1節　検体処理	採血で準備するもの、採血の流れ
5	第3章第1節　検体処理	採血の処理・保存法・採血管への分注・転倒混和
6	第3章第1節　検体処理	血液抗凝固剤の種類と特徴
7	第3章第2節　血液検査	CBC検査の意義
8	第3章第2節　血液検査	CBC検査の手技
9	第3章第2節　血液検査	ヘマトクリット管を用いる方法
10	第3章第2節　血液検査	マイクロピペットの使用法と血液外注検査（採血）
11	第3章第2節　血液検査	血液塗抹標本作成の意義
12	第3章第2節　血液検査	血液塗抹標本の作成方法：スライドグラスを用いる方法
13	第3章第2節　血液検査	血液塗抹標本の作成方法：カバーガラスを用いる方法
14	第3章第2節　血液検査	ギムザ染色
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章第2節　血液検査	キットを使用した迅速染色・封入
17	第3章第2節　血液検査	赤血球の観察（採血）
18	第3章第2節　血液検査	白血球の観察・白血球の百分比算定
19	第3章第2節　血液検査	血液化学検査
20	第3章第2節　血液検査	手技・輸血時のクロスマッチ（採血）
21	第3章第2節　血液検査	住血寄生虫の検査法・簡易キットを用いた免疫学的検査・凝固検査

22	第3章第1節　検体処理	尿採取法:自然排尿
23	第3章第1節　検体処理	尿採取法:圧迫排尿
24	第3章第1節　検体処理	尿採取法:導尿
25	第3章第1節　検体処理	尿採取法:膀胱穿刺・尿の保存法
26	第3章第1節　検体処理	採便法
27	第3章第1節　検体処理	採便と保存法
28	第3章第1節　検体処理	貯留液処理における採取法
29	第3章第1節　検体処理	貯留液処理における保存法
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	グルーミング実習ⅠⅡ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	186
対象年次	1年	授業形態	実習		
担当教員	中村知里・関口和実・小美野夏帆美・浅井あずさ・新里碧・金子幸一・田下政雄・飯田美雪				
授業概要	代表的な犬種（長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種）においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。				
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。				
テキスト・参考書等					
評価方法	Ⅰ：出席率80%以上・ウィッグ試験（作品の提出・60点以上）　Ⅱ：出席率80%以上				

	時間	授業計画及び学習の内容				
グルーミング実習Ⅰ	1	トレーニング①	22	トレーニング⑧	43	トレーニング⑮
	2		23		44	
	3		24		45	
	4	トレーニング②	25	トレーニング⑨		
	5		26			
	6		27			
	7	トレーニング③	28	トレーニング⑩		
	8		29			
	9		30			
	10	トレーニング④	31	トレーニング⑪		
	11		32			
	12		33			
	13	トレーニング⑤	34	トレーニング⑫		
	14		35			
	15		36			
	16	トレーニング⑥	37	トレーニング⑬		
	17		38			
	18		39			
	19	トレーニング⑦	40	トレーニング⑭		
	20		41			
	21		42			
	46	実習(ウィッグ試験)	ウィッグ試験①	※ウィッグの提出で試験となるが、通常の試験のルールとは異なり、試験期間中に作品の提出をもって評価となる。		
	47		ウィッグ試験②			
	48		ウィッグ試験③			
	49	実習心得	実習心得①			
	50		実習心得②			
	51		実習心得③			
	52		実習心得④			
	53		実習心得⑤			
	54		実習心得⑥			
	55-96	グルーミング実習				
グルーミング実習Ⅱ	97-186	グルーミング実習				

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	総合学習Ⅰ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		授業時間	147
対象年次	1年	授業形態	講義・実習		
担当教員	校長・クラス担任・就職担当・外部講師				
授業概要	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・ 総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。				
到達目標					
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル（公認トリマー教本）・JKC全犬種標準書・プードル・トリミングの教科書				
評価方法	出席率80%以上・試験(①プードル、②テリア、③マルチ・シーズ・ヨーキ、④コッカ、⑤ポメ・シェルティ・グルーミング）は出席率80%以上を満たした上で試験有。				

	授業計画及び学習の内容		
1	プードル①	金子幸一	①プードル
2	プードル②	金子幸一	
3	プードル③	金子幸一	
4	プードル④	金子幸一	
5	プードル⑤	金子幸一	
6	プードル⑥	金子幸一	
7	プードル⑦	金子幸一	
8	プードル⑧	金子幸一	
9	プードル⑨	金子幸一	
10	プードル⑩	金子幸一	
11	プードル⑪	金子幸一	
12	プードル⑫	金子幸一	
13	プードル⑬	金子幸一	
14	プードル⑭	金子幸一	
15	プードル⑮	金子幸一	
16	テリア①	飯田美雪	②テリア
17	テリア②	飯田美雪	
18	テリア③	飯田美雪	
19	テリア④	飯田美雪	
20	テリア⑤	飯田美雪	
21	テリア⑥	飯田美雪	
22	テリア⑦	飯田美雪	
23	テリア⑧	飯田美雪	
24	テリア⑨	飯田美雪	
25	テリア⑩	飯田美雪	
26	テリア⑪	飯田美雪	
27	テリア⑫	飯田美雪	
28	テリア⑬	飯田美雪	
29	テリア⑭	飯田美雪	
30	テリア⑮	飯田美雪	
31	マルチーズ①	利根川紘子	③マルチ・シーズ・ヨーキ
32	マルチーズ②	利根川紘子	
33	マルチーズ③	利根川紘子	
34	マルチーズ④	利根川紘子	
35	マルチーズ⑤	利根川紘子	
36	マルチーズ⑥	利根川紘子	
37	シーズー①	小美野夏帆美	
38	シーズー②	小美野夏帆美	

39	シーズー③	小美野夏帆美	
40	シーズー④	小美野夏帆美	
41	シーズー⑤	小美野夏帆美	
42	シーズー⑥	小美野夏帆美	
43	ヨーキー①	中村知里	
44	ヨーキー②	中村知里	
45	ヨーキー③	中村知里	
46	ヨーキー④	中村知里	
47	ヨーキー⑤	中村知里	
48	ヨーキー⑥	中村知里	
49	コッカスパニエル①	田下政雄	④コッカ
50	コッカスパニエル②	田下政雄	
51	コッカスパニエル③	田下政雄	
52	コッカスパニエル④	田下政雄	
53	コッカスパニエル⑤	田下政雄	
54	コッカスパニエル⑥	田下政雄	
55	コッカスパニエル⑦	田下政雄	
56	コッカスパニエル⑧	田下政雄	
57	コッカスパニエル⑨	田下政雄	
58	コッカスパニエル⑩	田下政雄	
59	コッカスパニエル⑪	田下政雄	
60	コッカスパニエル⑫	田下政雄	
61	ポメラニアン①	若林智子	⑤ポメ・シェルティ・グルーミング
62	ポメラニアン②	若林智子	
63	ポメラニアン③	若林智子	
64	ポメラニアン④	若林智子	
65	ポメラニアン⑤	若林智子	
66	ポメラニアン⑥	若林智子	
67	シェルティ—①	芝田早苗	
68	シェルティ—②	芝田早苗	
69	シェルティ—③	芝田早苗	
70	シェルティ—④	芝田早苗	
71	シェルティ—⑤	芝田早苗	
72	シェルティ—⑥	芝田早苗	
73	グルーミング①	渡辺まゆみ	
74	グルーミング②	渡辺まゆみ	
75	グルーミング③	渡辺まゆみ	
76	グルーミング④	渡辺まゆみ	
77	グルーミング⑤	渡辺まゆみ	
78	グルーミング⑥	渡辺まゆみ	
79	コッカスパニエル　実講①	田下政雄	
80	コッカスパニエル　実講②	田下政雄	
81	コッカスパニエル　実講③	田下政雄	
82	Mシュナ①	飯田美雪	
83	Mシュナ②	飯田美雪	
84	Mシュナ③	飯田美雪	
85	Mシュナ④	飯田美雪	
86	Mシュナ⑤	飯田美雪	
87	Mシュナ⑥	飯田美雪	
88	就学規則		
89	就学規則		
90	就学規則		
91	オリエンテーション①		
92	オリエンテーション①		
93	オリエンテーション①		
94	オリエンテーション②		
95	オリエンテーション②		
96	オリエンテーション②		
97	講義準備		
98	講義準備		
99	講義準備		

100	器具配布	
101	器具配布	
102	器具配布	
103	旅行説明	
104	旅行説明	
105	旅行説明	
106	研修旅行①	
107	研修旅行①	
108	研修旅行①	
109	研修旅行①	
110	研修旅行①	
111	研修旅行①	
112	研修旅行②	
113	研修旅行②	
114	研修旅行②	
115	研修旅行②	
116	研修旅行②	
117	研修旅行②	
118	課外研修	接客やサービスを学ぶ
119	課外研修	〃
120	課外研修	〃
121	課外研修	FCIドッグショー見学　後期
122	課外研修	〃
123	課外研修	〃
124	接客マナー①	社会人としてのマナー講習
125	接客マナー①	〃
126	接客マナー①	〃
127	接客マナー②	〃
128	接客マナー②	〃
129	接客マナー②	〃
130	特別講義	シャンプーメーカー
131	特別講義	〃
132	特別講義	〃
133	特別講義	ハサミ・バリカンメーカー
134	特別講義	〃
135	特別講義	〃
136	就職説明①	
137	就職説明①	
138	就職説明①	
139	就職説明②	
140	就職説明②	
141	就職説明②	
142	業界説明①	
143	業界説明①	
144	業界説明①	
145	業界説明②	
146	業界説明②	
147	業界説明②	

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物栄養学Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30） 今瑞穂 （愛玩動物看護師）				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	基礎栄養、栄養要求量、フードと栄養指導、疾患と栄養、強制給餌と経管・静脈栄養法について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻　動物栄養学				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物栄養学Ⅰ	1	第1章犬・猫の基礎栄養	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と	栄養と栄養素
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と	犬の品種による身体の特徴
	4	第1章犬・猫の基礎栄養	犬・猫の食性、摂食行動、嗜好性、異嗜、摂食量、飲水量
	5	第1章犬・猫の基礎栄養	犬・猫に与えてはいけない食材、添加物（禁忌食）
	6	第1章犬・猫の基礎栄養	犬・猫に与えてはいけない食材、添加物（禁忌食）
	7	第2章栄養評価法	犬と猫のエネルギー評価
	8	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養要求ガイドライン
	9	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養要求ガイドライン
	10	第2章栄養評価法	犬と猫のライフステージと栄養
	11	第2章栄養評価法	犬と猫のライフステージと栄養
	12	第2章栄養評価法	犬と猫のライフステージと栄養
	13	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養状態評価法
	14	第2章栄養評価法	犬と猫の栄養状態評価法
	15	ふりかえり	ふりかえり
	16	第3章フード	ペットフードの歴史
	17	第3章フード	ペットフードの種類
	18	第3章フード	ペットフードの製造方法
	19	第3章フード	ペットフードに使用される原料
	20	第3章フード	ペットフードに使用される原料
	21	第3章フード	ペットフードに使用される原料
	22	第3章フード	サプリメント
	23	第3章フード	サプリメント
	24	第3章フード	サプリメント
	25	第3章フード	ペットフードの法の規制

	26	第4章栄養指導	適正給与量「どのくらいフードを与えればよいのか？」
	27	第4章栄養指導	適正給与量「どのくらいフードを与えればよいのか？」
	28	第4章栄養指導	フードの選択「どんなフードを与えればよいのか？」
	29	第4章栄養指導	フードの選択「どんなフードを与えればよいのか？」
	30	ふりかえり	ふりかえり
動物栄養学Ⅱ	31	第4章栄養指導	肥満
	32	第4章栄養指導	肥満
	33	第4章栄養指導	肥満
	34	第5章疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理
	35	第5章疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理
	36	第5章疾患と栄養の関係	慢性腎臓病の栄養管理
	37	第5章疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理
	38	第5章疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理
	39	第5章疾患と栄養の関係	尿石症の栄養管理
	40	第5章疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理
	41	第5章疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理
	42	第5章疾患と栄養の関係	消化器疾患の栄養管理
	43	第5章疾患と栄養の関係	心疾患の栄養管理
	44	第5章疾患と栄養の関係	心疾患の栄養管理
	45	ふりかえり	ふりかえり
	46	第5章疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理
	47	第5章疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理
	48	第5章疾患と栄養の関係	肝疾患の栄養管理
	49	第5章疾患と栄養の関係	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
	50	第5章疾患と栄養の関係	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
	51	第5章疾患と栄養の関係	皮膚疾患・アレルギー疾患の栄養管理
	52	第5章疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理
	53	第5章疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理
	54	第5章疾患と栄養の関係	糖尿病の栄養管理
	55	第6章栄養管理	経口栄養剤の成分と利用法
	56	第6章栄養管理	強制給餌法
	57	第6章栄養管理	経胃栄養剤と経腸栄養剤の成分・利用法
	58	第6章栄養管理	設置したカテーテルの維持管理方法
	59	第6章栄養管理	食事管理失宜による症状および対応方法
	60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物病理学	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	佐々木ルリエ（獣医師）・菅谷茜（獣医師） 堀内　香（獣医師）				
授業概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。				
到達目標	動物病理学の基礎、細胞や組織に生じる変化、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻　動物病理学				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章動物病理学の基礎	病理学とは、病理検査技術
2	第1章動物病理学の基礎	病理検査技術
3	第1章動物病理学の基礎	病因
4	第1章動物病理学の基礎	内因
5	第1章動物病理学の基礎	外因（環境要因）
6	第2章傷害と細胞死	代謝障害と変性
7	第2章傷害と細胞死	代謝障害と変性
8	第2章傷害と細胞死	萎縮、壊死とアポトーシス
9	第3章細胞や組織の修復と再生	細胞増殖のメカニズム
10	第3章細胞や組織の修復と再生	細胞傷害に対する細胞の適応
11	第3章細胞や組織の修復と再生	創傷の分類と病的損傷
12	第3章細胞や組織の修復と再生	創傷の分類と病的損傷
13	第3章細胞や組織の修復と再生	組織、細胞の修復と再生
14	第3章細胞や組織の修復と再生	組織、細胞の修復と再生
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第4章循環障害	血液の循環傷害
17	第4章循環障害	組織液の循環障害、ショック
18	第5章炎症	炎症の定義、原因
19	第5章炎症	炎症による形態的変化
20	第5章炎症	炎症の分類
21	第5章炎症	炎症の分類
22	第6章腫瘍	腫瘍の定義・腫瘍の形態学的特徴
23	第6章腫瘍	腫瘍の分類と命名
24	第6章腫瘍	腫瘍の増殖
25	第6章腫瘍	腫瘍の宿主への影響　腫瘍免疫

26	第6章腫瘍	腫瘍の原因、発生のメカニズム
27	第6章腫瘍	腫瘍の種類
28	第7章先天異常	遺伝子・染色体異常
29	第7章先天異常	発生異常と奇形
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物薬理学Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30）				
	動物薬理学Ⅱ：池田先生（31-60）				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	動物薬理学の基礎、愛玩動物看護師による薬物の取扱い、神経系に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、循環器、泌尿器に作用する薬物、消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝、内分泌系の薬物、血液、免疫系に作用する薬物、感染症の治療、予防に用いられる薬物、悪性腫瘍の治療に用いられる薬物について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻　動物薬理学・動物病理学				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物薬理学Ⅰ	1	第1章愛玩動物看護師による薬物の取扱い	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	医薬品の開発
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
	4	第2章動物薬理学の基礎	薬の剤形と投与方法
	5	第2章動物薬理学の基礎	生体内での薬の動態（吸収、分布、代謝、排泄）
	6	第2章動物薬理学の基礎	薬効に影響を与える因子
	7	第2章動物薬理学の基礎	薬の有害作用
	8	第3章神経系に作用する薬	神経系の基本的事項
	9	第3章神経系に作用する薬	神経系の基本的事項
	10	第3章神経系に作用する薬	全身麻酔薬、局所麻酔薬
	11	第3章神経系に作用する薬	鎮痛薬・骨格筋弛緩薬
	12	第3章神経系に作用する薬	鎮静薬・抗痙攣薬
	13	第3章神経系に作用する薬	問題行動の治療薬
	14	第3章神経系に作用する薬	問題行動の治療薬
	15	ふりかえり	ふりかえり
	16	第4章呼吸器系に作用する薬物	呼吸興奮薬
	17	第4章呼吸器系に作用する薬物	鎮咳薬
	18	第4章呼吸器系に作用する薬物	抗喘息薬（気管支拡張薬）
	19	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	血管拡張薬（降圧薬）
	20	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	心不全治療薬
	21	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	抗不整脈薬

	22	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	利尿薬
	23	第5章循環器・泌尿器に作用する薬物	抗利尿薬
	24	第6章消化器に作用する薬	制吐薬と催吐薬
	25	第6章消化器に作用する薬	抗潰瘍薬
	26	第6章消化器に作用する薬	消化管運動促進（調整）薬および鎮静薬（鎮痙薬）
	27	第6章消化器に作用する薬	止瀉薬（制瀉薬）
	28	第6章消化器に作用する薬	瀉下薬（緩下薬）
	29	第6章消化器に作用する薬	肝・膵疾患の治療薬
	30	ふりかえり	ふりかえり
動物薬理学Ⅱ	31	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	オータコイド
	32	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	オータコイド
	33	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	抗炎症薬
	34	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	糖尿病治療薬
	35	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	甲状腺機能障害の治療薬
	36	第7章オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	脂質代謝異常の治療薬・骨代謝異常の治療薬
	37	第8章血液に作用する薬	貧血の発生機序と抗貧血薬
	38	第8章血液に作用する薬	血液凝固阻害薬
	39	第8章血液に作用する薬	血液凝固促進薬（止血剤）
	40	第9章免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬・免疫抑制薬
	41	第9章免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬・免疫抑制薬
	42	第9章免疫系に作用する薬	免疫に影響を与える薬・免疫抑制薬
	43	第9章免疫系に作用する薬	ワクチン
	44	第9章免疫系に作用する薬	ワクチン
	45	ふりかえり	ふりかえり
	46	第10章化学療法薬	抗腫瘍薬
	47	第10章化学療法薬	抗腫瘍薬
	48	第10章化学療法薬	抗腫瘍薬
	49	第10章化学療法薬	抗菌薬・抗真菌薬
	50	第10章化学療法薬	抗菌薬・抗真菌薬
	51	第10章化学療法薬	抗菌薬・抗真菌薬
	52	第10章化学療法薬	駆虫薬・抗原虫薬
	53	第10章化学療法薬	駆虫薬・抗原虫薬
	54	第10章化学療法薬	駆虫薬・抗原虫薬
	55	第10章化学療法薬	殺虫薬
	56	第10章化学療法薬	殺虫薬
	57	第10章化学療法薬	消毒薬
	58	第10章化学療法薬	消毒薬
	59	第10章化学療法薬	消毒薬
	60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物感染症学Ⅰ Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30） 堀内　香（獣医師）				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	微生物の分類と特徴・微生物検査・寄生虫の分類と特徴・動物感染症・免疫学の基礎と応用について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻　動物感染症学				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物感染症学Ⅰ	1	第1章1序論	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴	ウイルスの分類
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴	犬の品種による身体の特徴
	4	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの増殖・感染・変異
	5	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの伝播
	6	第1章2ウイルス学総論	ウイルスの伝播
	7	第1章3細菌学総論	細菌の分類・細菌の大きさ・形態・構造
	8	第1章3細菌学総論	細菌の増殖・代謝・遺伝子
	9	第1章3細菌学総論	細菌の感染・発症
	10	第1章4真菌学総論	真菌の分類と特徴
	11	第1章4真菌学総論	真菌の増殖に関わる要因、真菌の増殖様式と真菌種名
	12	第1章4真菌学総論	人獣共通感染症としての真菌
	13	第1章5プリオン総論	プリオン病
	14	第1章5プリオン総論	プリオン病
	15	ふりかえり	ふりかえり
	16	第1章6微生物検査法	微生物検査におけるバイオセーフティ
	17	第1章6微生物検査法	滅菌と消毒
	18	第1章6微生物検査法	ウイルス検査法
	19	第1章6微生物検査法	細菌検査法
	20	第1章6微生物検査法	真菌検査法
	21	第1章6微生物検査法	プリオン病の検査・診断法・薬剤感受性試験・PCR検査法
	22	第1章7免疫応答の異常	自己免疫による疾患
	23	第1章7免疫応答の異常	免疫異常による疾患
	24	第1章7免疫応答の異常	移植における免疫反応
	25	第1章8動物感染症	病原体の感染経路と伝播様式

	26	第1章8動物感染症	感染症の成立要因と統御要因
	27	第1章8動物感染症	感染症と病原体および生体防御機構
	28	第1章8動物感染症	ワクチンの原理と種類、接種プログラム
	29	第1章8動物感染症	治療に用いる抗ウイルス薬・抗菌薬・薬剤耐性菌
	30	ふりかえり	ふりかえり
動物感染症学Ⅱ	31	第1章9感染症の防御	農林水産省行政による動物感染症対策
	32	第1章9感染症の防御	厚生労働省による動物由来感染症対策
	33	第1章10感染症各論	犬と猫の感染症：狂犬病・犬ジステンパー・犬伝染性肝炎
	34	第1章10感染症各論	犬伝染性気管気管支炎（ケンネルコフ）・犬パラインフルエンザ感染症
	35	第1章10感染症各論	犬パルボウイルス感染症・犬コロナウイルス感染症
	36	第1章10感染症各論	猫ウイルス性鼻気管炎（猫ヘルペス1型）、猫カリシウイルス感染症
	37	第1章10感染症各論	猫汎白血球減少症（猫パルボ）、猫白血病ウイルス感染症
	38	第1章10感染症各論	猫免疫不全ウイルス感染症、猫コロナウイルス感染症、猫SFTS
	39	第1章10感染症各論	レプトスピラ症、ブルセラ症
	40	第1章10感染症各論	クラミジア症、猫ヘモプラズマ症（赤血球マイコプラズマ症）
	41	第1章10感染症各論	真菌症　皮膚糸状菌症
	42	第1章10感染症各論	真菌症　皮膚糸状菌症
	43	第1章10感染症各論	ウイルス病：口蹄疫、牛伝染性リンパ腫、牛ウイルス性下痢
	44	第1章10感染症各論	アカバネ病、豚流行性下痢、豚熱（CSF）、アフリカ豚熱（ASF）・高病原性鳥インフルエンザ
	45	第1章11感染症各論	ふりかえり
	46	第1章10感染症各論	細菌病：乳房炎、ヨーネ病、牛の肺炎、炭疽
	47	第1章10感染症各論	プリオン病、スクレイピー、牛海綿状脳症
	48	第1章10感染症各論	実験動物の感染症、序論
	49	第1章10感染症各論	ウイルス病：センダイウイルス感染症・マウス肝炎ウイルス感染症
	50	第1章10感染症各論	唾液性涙腺炎・エクトロメリアウイルス感染症・ハンタウイルス感染症
	51	第1章10感染症各論	細菌病：サルモネラ症・肺マイコプラズマ症
	52	第1章10感染症各論	ティザー病、ネズミコリネ菌感染症
	53	第1章10感染症各論	エキゾチックペット、野生動物の感染症：アリューシャン病
	54	第1章10感染症各論	オウム嘴羽病
	55	第1章10感染症各論	ニホンカモシカのパラポックスウイルス感染症（伝染性膿疱性皮膚炎）
	56	第1章10感染症各論	細菌病：ウェットテイル（増殖性回腸炎）、ウサギのトレポネーマ症
	57	第1章10感染症各論	モルモットの頸部リンパ節炎、鯨類のブルセラ病
	58	第1章10感染症各論	飼育下の野生動物のエルシニア症
	59	第1章10感染症各論	真菌症：メガバクテリウム症、鳥類のアスペルギルス症
	60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学Ⅲ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	佐々木ルリエ（獣医師）・菅谷茜（獣医師）				
授業概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬,輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。				
到達目標					
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻動物内科看護学				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	心電計の分類と構造
2	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	心電図検査の実際
3	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	心電図の評価
4	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	血圧測定法と血圧計の構造
5	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	血圧測定の実際
6	第10章心電図と血圧測定に関わる技術	血圧の評価
7	第12章超音波検査に関わる技術	超音波診断装置の原理と構造、超音波検査の実際
8	第12章超音波検査に関わる技術	超音波診断装置の原理と構造、超音波検査の実際
9	第12章超音波検査に関わる技術	超音波検査でわかること、超音波診断装置を用いた特殊な検査
10	第11章X線検査に関わる技術	X線検査の目的と動物看護師の役割、放射線とX線撮影の原理
11	第11章X線検査に関わる技術	撮影条件とX線フィルム、撮影体位と方法
12	第11章X線検査に関わる技術	造影検査、フィルムの現像と読影準備、透視撮影とコンピュータX線撮影法、被爆と被爆管理
13	第14章その他の画像検査に関わる技術	コンピュータ断層撮影法（CT）
14	第14章その他の画像検査に関わる技術	磁気共鳴画像法（MRI）
15	第14章その他の画像検査に関わる技術	核医学検査
16	第13章内視鏡検査に関わる技術	内視鏡の分類と構造・消化器内視鏡検査の実際
17	第13章内視鏡検査に関わる技術	スコープの洗浄と消毒
18	第13章内視鏡検査に関わる技術	その他の内視鏡検査
19	第15章神経学的検査に関わる技術	検査環境、必要な道具
20	第15章神経学的検査に関わる技術	実際の検査方法
21	第15章神経学的検査に関わる技術	実際の検査方法
22	第16章眼科検査に関わる技術	視覚検査
23	第16章眼科検査に関わる技術	眼科神経学的検査
24	第16章眼科検査に関わる技術	シルマー試験・眼圧測定

25	第16章眼科検査に関わる技術	細隙灯顕微鏡検査・フルオレセイン染色
26	第16章眼科検査に関わる技術	眼底検査・その他の眼科検査
27	第16章眼科検査に関わる技術	眼底検査・その他の眼科検査
28	第17章皮膚と耳の検査に関わる技術	皮膚科の検査
29	第17章皮膚と耳の検査に関わる技術	耳介の検査・耳道の検査
30	ふりかえり	ふりかえり

動物外科学看護学Ⅰ

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物外科看護学ⅠⅡ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30）				
	動物外科看護学Ⅱ（菅谷茜・獣医師）・（佐々木ルリエ・獣医師）				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	外傷、創傷管理、術前準備、麻酔、術中補助、術後管理、救急救命、動物理学療法について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻　動物外科看護学				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第1章手術チームでの動物看護師の役割と準備	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	手指の消毒法、手の拭き方
3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
4	第2章術前準備	術前準備と術前手続き
5	第2章術前準備	術前準備と術前手続き
6	第2章術前準備	手術準備室と手術室の準備
7	第2章術前準備	動物の術前準備
8	第2章術前準備	麻酔の準備、手術時のポジショニング
9	第2章術前準備	消毒の準備、術野の消毒法、ドレープの装着
10	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法、メス、ハサミ、ピンセット
11	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法、メス、ハサミ、ピンセット
12	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法、メス、ハサミ、ピンセット
13	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法、鉗子、持針器、リトラクター
14	第6章外科器具	一般的な手術器具と使用法、鉗子、持針器、リトラクター
15	第6章外科器具	整形外科器具とその使用法
16	第6章外科器具	歯科器具の名称と使用法

	17	第6章外科器具	歯科器具の名称と使用法
	18	第6章外科器具	手術器具の手入れ方法とその維持管理
	19	第5章縫合材料と縫合法	縫合針、一般的な縫合法
	20	第5章縫合材料と縫合法	一般的な縫合法
	21	第5章縫合材料と縫合法	一般的な縫合法
	22	第5章縫合材料と縫合法	縫合糸の分類、縫合糸の特徴、縫合糸のサイズ
	23	第5章縫合材料と縫合法	一般的な縫合糸の種類と特徴、縫合糸の包装
	24	第5章縫合材料と縫合法	縫合糸の代替品、縫合糸の選択基準
	25	第6章外科器具	滅菌準備
	26	第6章外科器具	手術器具の滅菌
	27	第6章外科器具	手術器具の滅菌
	28	第6章外科器具	代表的な医療器具
	29	第6章外科器具	代表的な医療器具
	30	第6章外科器具	代表的な医療器具
	31	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割
	32	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置の適応とリスク
	33	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置時に特有の問診
	34	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査
	35	第3章麻酔・鎮静処置	注射麻酔・鎮静に関わる手技（局所麻酔を含む）
	36	第3章麻酔・鎮静処置	吸入麻酔に関わる手技
	37	第3章麻酔・鎮静処置	導入時・覚醒時のリスクと対処
	38	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔看視項目・麻酔記録の作成法
	39	第3章麻酔・鎮静処置	麻酔あるいは鎮静処置に伴う疼痛管理
	40	第4章術中補助・術後管理	術中動物看護の役割と必要な動物看護援助、術直後動物看護の役割と必要な動物看護援助
	41	第4章術中補助・術後管理	術後動物看護の役割と必要な動物看護援助、縫合剤と手術器具、直接補助と間接補助を行う動物看護師

動物外科看護学Ⅱ	42	第4章術中補助・術後管理	直接補助の業務（手術前の心構え、予定術式の確認、手洗い）
	43	第4章術中補助・術後管理	直接補助の業務（ガウンの着用、グローブの装着、手術器具と器具台の準備、器械出しなど）
	44	第4章術中補助・術後管理	間接補助の業務（予定術式の確認、手術室の準備など）
	45	第4章術中補助・術後管理	間接補助の業務（麻酔の準備、麻酔導入の補助、モニター装着と動物の固定、術野の消毒など）
	46	第7章創傷管理と包帯法	創傷の分類、手術後の創傷管理
	47	第7章創傷管理と包帯法	創傷の分類、手術後の創傷管理
	48	第7章創傷管理と包帯法	ドレッシング法実施時の創傷管理、包帯法（バンデージ）
	49	第7章創傷管理と包帯法	包帯法（バンデージ）
	50	第7章創傷管理と包帯法	褥瘡の予防
	51	第8章創傷管理と包帯法	褥瘡の予防
	52	第8章救急救命法	生命徴候のアセスメント・動物の呼吸を楽にする姿勢
	53	第8章救急救命法	循環管理、保温・止血法、気管内挿管
	54	第8章救急救命法	心肺蘇生処置・その他の救急救命処置に関わる状態
	55	第9章動物の機能回復	基本的な活動性と動作能力・活動・運動能力に対するアセスメント・活動・運動能力に対する援助方法
	56	第9章動物の機能回復	対象動物の体位変換
	57	第9章動物の機能回復	リハビリテーションと動物の理学療法
	58	第9章動物の機能回復	代表的な理学療法の原理と手技、マッサージ、ストレッチ
	59	第9章動物の機能回復	代表的な理学療法の原理と手技、運動療法（エクササイズ）
	60	第9章動物の機能回復	代表的な理学療法の原理と手技、物理療法

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	適正飼養指導論Ⅰ Ⅱ	必修		
		60	時間数	60
対象年次	2年	講義		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30）			
	適正飼養指導論Ⅱ（堀内香・獣医師）			
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。			
到達目標	愛玩動物の飼養、適正飼養の推進、災害危機管理と支援、動物愛護管理行政について理解する。			
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻　適正飼養指導論			
評価方法	出席率80％以上・定期試験			

		授業計画及び学習の内容	
適性飼養指導論Ⅰ	1	第1章愛玩動物の飼養	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	動物福祉から考えた適正飼養
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
	4	第1章愛玩動物の飼養	適正飼養と飼育マナー、飼い主の責務
	5	第1章愛玩動物の飼養	愛玩動物飼養の現状
	6	第1章愛玩動物の飼養	動物を飼うことについての問題点
	7	第1章愛玩動物の飼養	愛玩動物によって人間が受ける影響と問題点
	8	第1章愛玩動物の飼養	動物が与える人の生理的、身体的効果、動物が与える社会的効果
	9	第1章愛玩動物の飼養	動物がいることによる3つの効果、動物の効果についてのパラメーター、動物の飼育によるネガティブな影響
	10	第2章動物終末期（飼い主）ケア	動物終末期（飼い主）ケアの総論と動物看護師の役割
	11	第2章動物終末期（飼い主）ケア	飼い主の要因を考える、動物看護師（獣医師）側の要因を考える、終末期ケアによくある悪い知らせを伝える技法を使う
	12	第2章動物終末期（飼い主）ケア	終末期に提供される安楽死と火葬と埋葬時の配慮をする、ペットロスを回避するために飼い主を意思決定過程に積極的に関与させる
	13	第2章動物終末期（飼い主）ケア	グリーフとは、ペットのグリーフ、グリーフケアのコミュニケーションの実践
	14	第2章動物終末期（飼い主）ケア	ペットロスの定義、ペットロスの対象動物、ペットロスに影響する要因、医療の介入の必要なペットロス、ペットロスに対する現場での動物看護師の対応
	15	ふりかえり	ふりかえり
	16	第3章適正飼養の推進	適正飼養に関する支援の目的と活動（民間団体等によるものを含む）

	17	第3章適正飼養の推進	動物取扱業者における適正飼養、犬猫の飼養管理基準
	18	第3章適正飼養の推進	愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策、法律等による規制
	19	第3章適正飼養の推進	問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法
	20	第3章適正飼養の推進	動物の適切な選択
	21	第3章適正飼養の推進	十分な社会化
	22	第3章適正飼養の推進	子犬教室
	23	第3章適正飼養の推進	子猫教室
	24	第3章適正飼養の推進	子犬教室や子猫教室のメリット
	25	第3章適正飼養の推進	適切な環境の提供
	26	第3章適正飼養の推進	飼い主と動物の絆の構築
	27	第3章適正飼養の推進	適切なしつけ
	28	第3章適正飼養の推進	不妊、去勢手術
	29	第3章適正飼養の推進	問題行動に関する知識の提供・動物病院とドッグトレーナーの役割分担
	30	ふりかえり	ふりかえり
適性飼養指導論Ⅱ	31	第4章災害危機管理と支援	災害時におけるペットの救護対策ガイドライン、ガイドラインの策定の背景
	32	第4章災害危機管理と支援	ガイドラインで用いられる主な用語の解説
	33	第4章災害危機管理と支援	同行避難を推進する背景、同行避難の課題、災害関連法規における同行避難
	34	第4章災害危機管理と支援	災害時の対応は飼い主による「自助」が基本
	35	第4章災害危機管理と支援	平常時および災害時の飼い主の備え、飼養管理周辺の防災対策
	36	第4章災害危機管理と支援	ペットの所有者明示、ペットのしつけと健康管理
	37	第4章災害危機管理と支援	ペット用の避難用品に備蓄品の確保、情報収取と避難訓練、一時預かり先の確保
	38	第4章災害危機管理と支援	災害発生時における飼い主の備え、動物看護師の平常時における役割
	39	第4章災害危機管理と支援	動物由来感染症を含めたペットの防災、減災の啓発
	40	第4章災害危機管理と支援	災害時のボランティアの人材に登録、指定避難所でのペットの同行避難者の受け入れルールを構築
	41	第4章災害危機管理と支援	応急仮設住宅でのペットの同居の飼養ルールを構築、必要な物資の備蓄、更新
	42	第4章災害危機管理と支援	避難所までの誘導は飼い主の安全確保、状況確認が必要、指定避難所でのペットの同行避難の受け入れ
	43	第4章災害危機管理と支援	動物間の感染症及び動物由来の人獣共通感染症の衛生管理、義援金の募集方法の検討
	44	第4章災害危機管理と支援	応急仮設住宅での入居者の対応、各種団体と協同していく方法
	45	ふりかえり	ふりかえり
	46	第5章動物愛護管理行政	公衆衛生と動物愛護管理、動物愛護管理センター
	47	第5章動物愛護管理行政	動物愛護管理担当職員、動物愛護推進員

	48	第5章動物愛護管理行政	動物愛護推進協議会、動物愛護週間と動物愛護教育
	49	第5章動物愛護管理行政	適正飼養の普及啓発
	50	第5章動物愛護管理行政	動物飼養者への指導
	51	第5章動物愛護管理行政	多頭飼育問題（犬）
	52	第5章動物愛護管理行政	多頭飼育問題（猫）
	53	第5章動物愛護管理行政	動物による事故、愛玩動物看護師と適正飼養
	54	第5章動物愛護管理行政	犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容
	55	第5章動物愛護管理行政	犬の引き取りと収容、猫の引き取りと収容
	56	第5章動物愛護管理行政	負傷動物の収容、これからの課題
	57	第5章動物愛護管理行政	動物取扱業者の規制
	58	第5章動物愛護管理行政	動物取扱業者の監視指導
	59	第5章動物愛護管理行政	動物取扱責任者
	60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物内科看護学実習ⅢⅣ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	2年	授業形態	実習		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30） 佐々木ルリエ（獣医師）・菅谷茜（獣医師）・安田一敏（獣医師）				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	診療補助と身体検査、輸液管理、輸血管理、注射器の取扱い、動物看護技術の実践と応用、マイクロチップの装着、X線検査、超音波検査、心電図検査、皮膚検査と耳検査、神経学的検査、眼科検査について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト第3版				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物内科看護学実	1	第2章第2節輸液管理	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	輸液ポンプの接続
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
	4	第2章第2節輸液管理	輸液中の観察、看護動物のモニタリング（観察・記録）
	5	第2章第2節輸液管理	投与後の処置（一次的に中断する場合、留置針抜去）
	6	第2章第2節輸液管理	輸液中の警報（閉塞警報、滴下異常警報、気泡警報）
	7	第2章第2節輸液管理	シリンジポンプの接続・取扱い
	8	第2章第2節輸液管理	皮下輸液（補液）
	9	第2章第2節輸液管理	輸液量と輸液速度の計算
	10	第2章第3節輸血管理	輸血とは、輸血用血液採取
	11	第2章第3節輸血管理	輸血バッグによる採決、全血の保存、輸血法、モニタリング
	12	第2章第3節輸血管理	輸血バッグによる採決、全血の保存、輸血法、モニタリング
	13	第2章第6節マイクロチップの装着	マイクロチップの挿入部位と基礎知識
	14	第2章第6節マイクロチップの装着	マイクロチップの装着手順
	15	第2章第6節マイクロチップの装着	マイクロチップの登録、専用リーダーの取扱い
	16	第2章第8節超音波検査	超音波検査の仕組み

習Ⅲ	17	第2章第8節超音波検査	検査前の準備・看護動物の処置
	18	第2章第8節超音波検査	超音波診断の準備
	19	第2章第8節超音波検査	検査目的に合った動物のポジショニング
	20	第2章第8節超音波検査	超音波検査の取扱い
	21	第2章第7節X線検査	X線とは
	22	第2章第7節X線検査	X線に必要な条件
	23	第2章第7節X線検査	撮影フィルムに影響を与える散乱線
	24	第2章第7節X線検査	グリッドの使用
	25	第2章第7節X線検査	撮影に必要な器具
	26	第2章第7節X線検査	カセッテおよびフィルムの取扱い
	27	第2章第7節X線検査	CR(Computed Radiography)システム
	28	第2章第7節X線検査	撮影目的に合った動物のポジショニング・正しいポジショニング
	29	第2章第7節X線検査	X線撮影の方向とポジショニング
	30	第2章第7節X線検査	適切な現像と管理
動物内	31	第2章第7節X線検査	フィルムおよびデータの管理
	32	第2章第7節X線検査	X線フィルムの基本的な読影
	33	第2章第7節X線検査	X線撮影に従事する者の各種報告の義務
	34	第2章第7節X線検査	DRについて
	35	第2章第7節超音波検査	CT検査・MRI検査
	36	第2章第8節超音波検査	CT検査・MRI検査
	37	第2章第9節心電図検査	心電図の原理
	38	第2章第9節心電図検査	心臓の機能・正常波形
	39	第2章第9節心電図検査	心電図の取扱いと操作・記録紙の見方・動物のポジショニング
	40	第2章第10節皮膚検査と耳検査	皮膚検査
	41	第2章第10節皮膚検査と耳検査	皮膚検査
	42	第2章第10節皮膚検査と耳検査	皮膚検査
	43	第2章第10節皮膚検査と耳検査	耳検査
	44	第2章第10節皮膚検査と耳検査	耳検査

科看護学実習Ⅳ	45	ふりかえり	ふりかえり
	46	第2章第11節神経学的検査	姿勢反応試験
	47	第2章第11節神経学的検査	姿勢反応試験
	48	第2章第11節神経学的検査	脊髄反射試験
	49	第2章第11節神経学的検査	脊髄反射試験
	50	第2章第11節神経学的検査	脳神経機能試験
	51	第2章第11節神経学的検査	脳神経機能試験
	52	第2章第12節眼科検査	視診・視覚検査
	53	第2章第12節眼科検査	シルマー涙液試験
	54	第2章第12節眼科検査	フルオレセイン染色
	55	第2章第12節眼科検査	眼圧測定
	56	第2章第12節眼科検査	検眼鏡検査
	57	第2章第12節眼科検査	スリットランプ検査
	58	第2章第12節眼科検査	眼底検査
	59	第2章第12節眼科検査	眼科検査の保定
	60	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物外科看護学実習ⅠⅡⅢ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	90
対象年次	2年	授業形態	実習		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30） 菅谷茜（獣医師）・佐々木ルリエ（獣医師）				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	手術関連業務、術前術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリング、外科に関する技術の実践と応用、救急救命について理解する。				
キスト・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版				
評価方法	出席率80％以上・定期試験				

		授業計画及び学習の内容	
動物外科看護学実習Ⅰ	1	第4章第1節　手術関連業務	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	リネン類等の種類
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
	4	第4章第2節　術前の看護	手洗いおよび手術衣、手袋の着用
	5	第4章第2節　術前の看護	手術用の手洗い（スクラブ法・ラビング法）
	6	第4章第2節　術前の看護	手術衣の着用の手順・手袋の着用
	7	第4章第1節　手術関連業務	手術器具の種類と目的
	8	第4章第1節　手術関連業務	手術に使用する医療機器（麻酔器）
	9	第4章第1節　手術関連業務	手術に使用する医療機器（麻酔器）
	10	第4章第1節　手術関連業務	手術に使用する医療機器（生体情報モニター）
	11	第4章第1節　手術関連業務	手術に使用する医療機器（点滴装置）
	12	第4章第1節　手術関連業務	手術に使用する医療機器（点滴装置）
	13	第4章第1節　手術関連業務	手術器具（メス・剪刃（ハサミ）
	14	第4章第1節　手術関連業務	手術器具（メス・剪刃（ハサミ）
	15	第4章第1節　手術関連業務	手術器具（ピンセット・鉗子・持針器）
	16	第4章第1節　手術関連業務	その他の手術に必要な器具（挿管セット）
	17	第4章第1節　手術関連業務	その他の手術に必要な器具（挿管セット）
	18	第4章第1節　手術関連業務	その他の手術に必要な器具（挿管セット）
	19	第4章第1節　手術関連業務	縫合糸・縫合針の種類と特性
	20	第4章第1節　手術関連業務	縫合糸
	21	第4章第1節　手術関連業務	縫合針
	22	第4章第1節　手術関連業務	滅菌に使用する器具
	23	第4章第1節　手術関連業務	滅菌方法（高圧蒸気滅菌）
	24	第4章第1節　手術関連業務	滅菌方法（ガス滅菌）

	25	第4章第2節　術前の看護	術野の毛刈りと消毒で準備するもの
	26	第4章第2節　術前の看護	剃毛の手順
	27	第4章第2節　術前の看護	洗浄・消毒の手順
	28	第4章第2節　術前の看護	気管挿管で準備するもの
	29	第4章第2節　術前の看護	気管挿管の事前準備
	30	第4章第2節　術前の看護	挿管の手順
動物外科看護学実習Ⅱ	31	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔薬・鎮痛薬の関連法規：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
	32	第4章第3節　麻酔・鎮痛	薬剤師法・麻薬及び向精神薬取締法
	33	第4章第3節　麻酔・鎮痛	薬物の規制区分
	34	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔前投与の種類と作用
	35	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔薬の投与方法
	36	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔薬の種類と作用
	37	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔薬使用時の注意点
	38	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔器の名称と構造
	39	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔器の日常管理・麻酔器の始業点検
	40	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔記録とバイタルサイン評価
	41	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔記録とバイタルサイン評価
	42	第4章第3節　麻酔・鎮痛	麻酔記録とバイタルサイン評価
	43	第4章第4節　麻酔モニタリング	術前のふりかえり
	44	第4章第4節　麻酔モニタリング	術前のふりかえり
	45	第4章第4節　麻酔モニタリング	術前のふりかえり
	46	第4章第4節　麻酔モニタリング	麻酔器の呼吸回路（リークテスト）
	47	第4章第4節　麻酔モニタリング	モニター機器の仕組み
	48	第4章第4節　麻酔モニタリング	モニター機器の装着方法
	49	第4章第4節　麻酔モニタリング	モニター機器の装着方法
	50	第4章第4節　麻酔モニタリング	モニター画面の数値と観察項目
	51	第4章第4節　麻酔モニタリング	術中のバイタルサイン評価
	52	第4章第4節　麻酔モニタリング	麻酔導入時の操作・麻酔濃度の調整
	53	第4章第4節　麻酔モニタリング	麻酔終了時の操作・補助呼吸及び人工呼吸器
	54	第4章第4節　麻酔モニタリング	人工呼吸器の装着・補助呼吸
	55	第4章第2節　術後の看護	術後の管理、抜糸の補助
	56	第4章第2節　術後の看護	術後の管理、抜糸の補助
	57	第4章第2節　術後の看護	術後の管理、抜糸の補助
	58	第4章第1節　手術関連業務	歯科処置と看護のケア/歯石除去手術（スケーリング）
	59	第4章第1節　手術関連業務	歯石除去手術（スケーリング）
	60	第4章第1節　手術関連業務	歯石除去手術（スケーリング）

動物外科看護学実習Ⅲ	61	第4章第2節　術後の看護	術後のバイタルサイン評価
	62	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：一般状態の観察（バイタルサイン評価・モニタリング評価）
	63	第4章第2節　術前の看護	滅菌、汚染の区別・術創の保護
	64	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：疼痛管理・術創管理
	65	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：投薬管理（輸液・抗菌薬・鎮痛薬・輸血）
	66	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：栄養管理
	67	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：排泄状態の観察
	68	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：環境整備（入院ケージ）
	69	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	周術期の動物看護：環境整備（入院ケージ）
	70	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：マッサージ療法
	71	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：徒手療法
	72	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：物理療法
	73	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：運動療法
	74	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：運動療法
	75	第4章第5節　外科に関する技術の実践と応用	リハビリテーション：運動療法
	76	第4章第6節　救急救命	救急救命とは
	77	第4章第6節　救急救命	トリアージの判定基準と分類
	78	第4章第6節　救急救命	緊急時のバイタルサイン評価
	79	第4章第6節　救急救命	心肺停止（CPA）とは
	80	第4章第6節　救急救命	心肺停止（CPA)とは
	81	第4章第6節　救急救命	心肺蘇生（CPCR)とは
	82	第4章第6節　救急救命	心肺蘇生（CPCR)の手順：初期評価
	83	第4章第6節　救急救命	心肺蘇生（CPCR）の手順：一次救命措置
	84	第4章第6節　救急救命	心肺蘇生（CPCR）の手順：一次救命措置
	85	第4章第6節　救急救命	二次救命措置
	86	第4章第6節　救急救命	二次救命措置
	87	第4章第6節　救急救命	二次救命措置
	88	第4章第6節　救急救命	救急疾患の基礎知識
	89	第4章第6節　救急救命	救急疾患の基礎知識
	90	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物臨床検査学実習Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	30
対象年次	2年	授業形態	実習		
担当教員	佐々木ルリエ(獣医師)・菅谷茜(獣医師)				
	佐々木ルリエ(獣医師)・菅谷茜(獣医師)・池田亜紀子(獣医師)				
授業概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。				
到達目標	検体採取・処理の手順の習得、血液採取法と各成分に応じた保存法、血液抗凝固剤の種類と特徴、尿採取法と保存法、採便法と保存法、貯留液処理における採取法と保存法を理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト　第3版				
評価方法	出席率80%以上・定期試験				

	授業計画及び学習の内容	
1	第3章第3節　尿検査	物理学的性状検査・検査項目
2	第3章第3節　尿検査	手技
3	第3章第3節　尿検査	化学的検査
4	第3章第3節　尿検査	顕微鏡学的検査:尿沈渣
5	第3章第3節　尿検査	手技
6	第3章第4節　糞便検査	物理学的性状検査の検査項目
7	第3章第4節　糞便検査	物理学的性状検査の手技
8	第3章第4節　糞便検査	顕微鏡学的検査:直接塗抹法の検査項目
9	第3章第4節　糞便検査	直接塗抹法の手技
10	第3章第4節　糞便検査	集卵法の手技
11	第3章第4節　糞便検査	集卵法の検査項目
12	第3章第4節　糞便検査	集卵法の手技(試験管を用いた集卵法)
13	第3章第4節　糞便検査	簡易キットを用いた免疫学的検査
14	第3章第4節　糞便検査	まとめ
15	ふりかえり	ふりかえり
16	第3章第5節　細胞診	病理検査における細胞診・細胞診に必要な器材
17	第3章第5節　細胞診	細胞診の長所と欠点
18	第3章第5節　細胞診	検体の種類と採取法
19	第3章第5節　細胞診	検体処理法
20	第3章第5節　細胞診	検体処理法における注意点
21	第3章第5節　細胞診	染色法・病理組織学的検査
22	第3章第6節　微生物学的検査	細菌および真菌培養検査の意義
23	第3章第6節　微生物学的検査	細菌および真菌培養検査の意義
24	第3章第6節　微生物学的検査	細菌培養手技

25	第3章第6節　微生物学的検査	真菌培養検査
26	第3章第6節　微生物学的検査	真菌培養検査
27	第3章第6節　微生物学的検査	グラム染色の手順
28	第3章第6節　微生物学的検査	基本的な菌の同定
29	第3章第6節　微生物学的検査	基本的な菌の同定
30	ふりかえり	ふりかえり

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物愛護・適正飼養実習ⅠⅡ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	60
対象年次	2年	授業形態	講義		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30）				
	芝田早苗・中村知里・関口和実・村瀬英博・村瀬真平・吉本斐香・利根川紘子・梅山明美				
授業概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
到達目標	愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い、エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取り扱い、ドッグトレーニング、グルーミング、口腔内衛生管理、飼い主とのコミュニケーション、動物愛護管理行政について理解する。				
テキスト・参考書等	愛玩動物看護師カリキュラム準拠　動物看護実習テキスト・第3版・猫の教科書（緑書房）				
評価方法	出席率80％以上・定期試験・実技試験				

,

動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	1	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	2	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	犬の飼育管理　犬の口腔内の構造、歯列、歯式、疾患、予防
	3	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
	4	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	犬の品種による身体の特徴・基本的な動作・特徴
	5	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	犬のケージの衛生管理・食事管理
	6	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	犬のハンドリング・扱い方
	7	第6章第4節　グルーミング	犬のグルーミングについて
	8	第6章第4節　グルーミング	犬のシャンプー、トリートメント剤の種類
	9	第6章第4節　グルーミング	犬のシャンプーと薬浴
	10	第6章第4節　グルーミング	犬のブラッシング、コーミング
	11	第6章第4節　グルーミング	犬のドライング
	12	第6章第4節　グルーミング	犬の爪切り
	13	第6章第4節　グルーミング	犬の耳掃除、犬の肛門嚢しぼり
	14	第6章第4節　グルーミング	クリッパーを使ったクリッピング
	15	第6章第4節　グルーミング	犬の高齢動物や罹患動物のケア・エンゼルケア
	16	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（古典的/オペラント条件づけについて、ご褒美について）
	17	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（アイコンタクト、お散歩の導入部分、しつけグッズ）
	18	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（アイコンタクト、お散歩、しつけグッズ）

	19	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（アイコンタクト、お散歩、オスワリ等の導入部分）
	20	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（アイコンタクト、マテ等の導入部分）
	21	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（アイコンタクト、フセ等の導入部分）
	22	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（アイコンタクト、お散歩等）
	23	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（オスワリ、マテ、フセ等）
	24	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（オスワリ、マテ、フセ等）
	25	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（お散歩、オスワリ、マテ、フセ等の実生活に於けるしつけ応用）
	26	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定
	27	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定
	28	第6章第6節 ドッグトレーニング	基本的な訓練法（お散歩、オスワリ、マテ、フセ等の実生活に於けるしつけ応用）
	29	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定
	30	第6章第6節 ドッグトレーニング	大型犬の保定
動物愛護・適正飼	31	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	愛玩鳥の飼育管理
	32	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	愛玩鳥の飼育管理
	33	ふりかえり	ふりかえり
	34	第6章第2節　エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取り扱い	エキゾチックアニマルとは
	35	第6章第2節　エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取り扱い	ウサギ
	36	第6章第2節　エキゾチックアニマルの特徴と基本的な取り扱い	ハムスター・フェレット
	37	第6章第6節　飼い主とのコミュニケーション	犬の飼い主が法令に基づき遵守すべき対応、犬の飼い主の責務
	38	第6章第6節　飼い主とのコミュニケーション	マイクロチップに関する決まり、装着、登録、ペットの迷子、保護
	39	第6章第6節　飼い主とのコミュニケーション	マイクロチップに関する決まり、装着、登録、ペットの迷子、保護
	40	第6章第6節　飼い主とのコミュニケーション	動物の飼養困難者への支援、多頭飼育、問題行動への対策
	41	第6章第6節　飼い主とのコミュニケーション	傷病野生動物、災害時の飼い主の支援
	42	第6章第7節　動物愛護管理行政	動物愛護管理センターへの活動
	43	第6章第7節　動物愛護管理行政	動物取扱業者へ指導すべき内容
	44	第6章第7節　動物愛護管理行政	動物取扱業における顧客への対応
	45	ふりかえり	ふりかえり

飼養実習Ⅱ	46	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	猫の飼育管理
	47	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	猫の排泄の正常と異常
	48	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	猫の品種による違い
	49	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	猫の性別による基本的な動作・特徴
	50	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	猫のケージの衛生管理・食事管理
	51	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	猫のハンドリング・扱い方
	52	第6章第4節　グルーミング	猫のグルーミング
	53	第6章第4節　グルーミング	猫のクリッピング
	54	第6章第4節　グルーミング	猫のクリッピング
	55	第6章第4節　グルーミング	猫の爪切り
	56	第6章第4節　グルーミング	猫の高齢動物や罹患動物のケア・エンゼルケア
	57	第6章第6節　飼い主とのコミュニケーション	猫の飼い主の責務
	58	第6章第5節　口腔内衛生管理	猫の口腔内の構造、歯列、歯式
	59	第6章第5節　口腔内衛生管理	猫の口腔内の疾患
	60	第6章第5節　口腔内衛生管理	猫の口腔疾患の予防、デンタルケア

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	動物看護総合実習ⅠⅡⅢ （動物病院実習）	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	90
対象年次	2年	授業形態	実習		
担当教員	動物薬理学Ⅰ：池田先生（1-30）				
授業概要	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。 診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、 愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。				
到達目標	動物病院実習を経て、動物看護業務の理解、動物看護業務の体験、動物看護業務の実践のために知識とスキルを習得する。				
テキスト・参考書等	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				
評価方法	原則、規定された日数における実習参加・レポート提出				

		授業計画及び学習の内容	
動物看護総合実習Ⅰ	1	動物病院実習　事前説明（4月）	
	2	動物病院実習　事前説明（11月）	
	3	動物病院実習　事前説明（11月）	手術チームにおける動物看護師の役割、手術室にはいるとき
	4 ～30	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。 診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
護総合	31～60	第6章第1節　愛玩動物の特徴と基本的な取り扱い・第5節口腔衛生管理	犬の品種による身体の特徴
動物看護総合実習Ⅲ	61～87	動物病院実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。 診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。
	88～90	動物病院実習　発表	

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	グルーミング実習ⅢⅣ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		時間数	180
対象年次	2年	授業形態	講義・実習		
担当教員	利根川紘子・若林智子・芝田早苗・田下政雄・飯田美雪・秋葉雅心				
授業概要	代表的な犬種（長毛犬種・プードル種・スパニエル種・テリア種）においての様々なライフステージや疾患を罹患している際に安全にメディカルグルーミングを実施するための知識やスキルを習得する。				
到達目標	グルーミング、トリミングの目的や必要性を理解し実習において実践する。				
テキスト・参考書等	最新ドッググルーミングマニュアル（公認トリマー教本）、JKC全犬種標準書、ドッググルーミングブック（緑書房）、プードル・トリミングの教科書（Eduward press）、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書第6巻愛玩動物学（Eduward press）				
評価方法	出席率80%以上・グルーミング実習Ⅳ（ライセンス試験有）				

		授業計画及び学習の内容	
グルーミング実習Ⅲ	1-90	グルーミング実習	長毛犬種（マルチーズ、シーズ-、ポメラニアン、ヨークシャテリア、シェットランドシープドッグ）、プードル、テリア種（エアデールテリア・ベドリントン・テリア）（トレーニング6時間）
グルーミング実習Ⅳ	91-168	グルーミング実習	長毛犬種（マルチーズ、シーズ-、ポメラニアン、ヨークシャテリア、シェットランドシープドッグ）、プードル、テリア種（エアデールテリア・ベドリントン・テリア）
	169-180	ライセンス試験（C級）	6月-7月に1日×2回（2日分）で実施予定

東京愛犬専門学校　動物看護学科

授業科目	総合学習Ⅱ	必修・選択区分	必修		
		授業回数		授業時間	51
対象年次	2年	授業形態	講義・実習		
担当教員	今瑞穂（愛玩動物看護師）、担任、外部講師				
授業概要	探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。				
到達目標					
テキスト・参考書等					
評価方法	出席率80％以上				

	授業計画及び学習の内容	
1	課外研修①	FCIドッグショー　見学　前期
2	課外研修①	FCIドッグショー　見学　前期
3	課外研修①	FCIドッグショー　見学　前期
4	課外研修②	FCIドッグショー　見学　前期
5	課外研修②	FCIドッグショー　見学　前期
6	課外研修②	FCIドッグショー　見学　前期
7	特別講義①	課外セミナー
8	特別講義①	課外セミナー
9	特別講義①	課外セミナー
10	旅行説明	
11	旅行説明	
12	旅行説明	
13	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
14	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
15	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
16	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
17	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
18	研修旅行①	フィールドトライアル研修旅行
19	研修旅行②	フィールドトライアル研修旅行
20	研修旅行②	フィールドトライアル研修旅行
21	研修旅行②	フィールドトライアル研修旅行
22	研修旅行②	フィールドトライアル研修旅行
23	研修旅行②	フィールドトライアル研修旅行
24	研修旅行②	フィールドトライアル研修旅行
25	研修旅行③	フィールドトライアル研修旅行
26	研修旅行③	フィールドトライアル研修旅行
27	研修旅行③	フィールドトライアル研修旅行
28	研修旅行③	フィールドトライアル研修旅行
29	研修旅行③	フィールドトライアル研修旅行
30	研修旅行③	フィールドトライアル研修旅行
31	課外研修	FCIドッグショー　見学　後期
32	課外研修	FCIドッグショー　見学　後期
33	課外研修	FCIドッグショー　見学　後期
34	特別講義②	
35	特別講義②	
36	特別講義②	
37	動物看護技術学①	
38	動物看護技術学②	
39	動物看護技術学③	

40	動物看護技術学④	
41	動物看護技術学⑤	
42	動物看護技術学⑥	
43	動物看護技術学⑦	
44	動物看護技術学⑧	
45	動物看護技術学⑨	
46	動物看護技術学⑩	
47	動物看護技術学⑪	
48	動物看護技術学⑫	
49	動物看護技術学⑬	
50	動物看護技術学⑭	
51	動物看護技術学⑮	